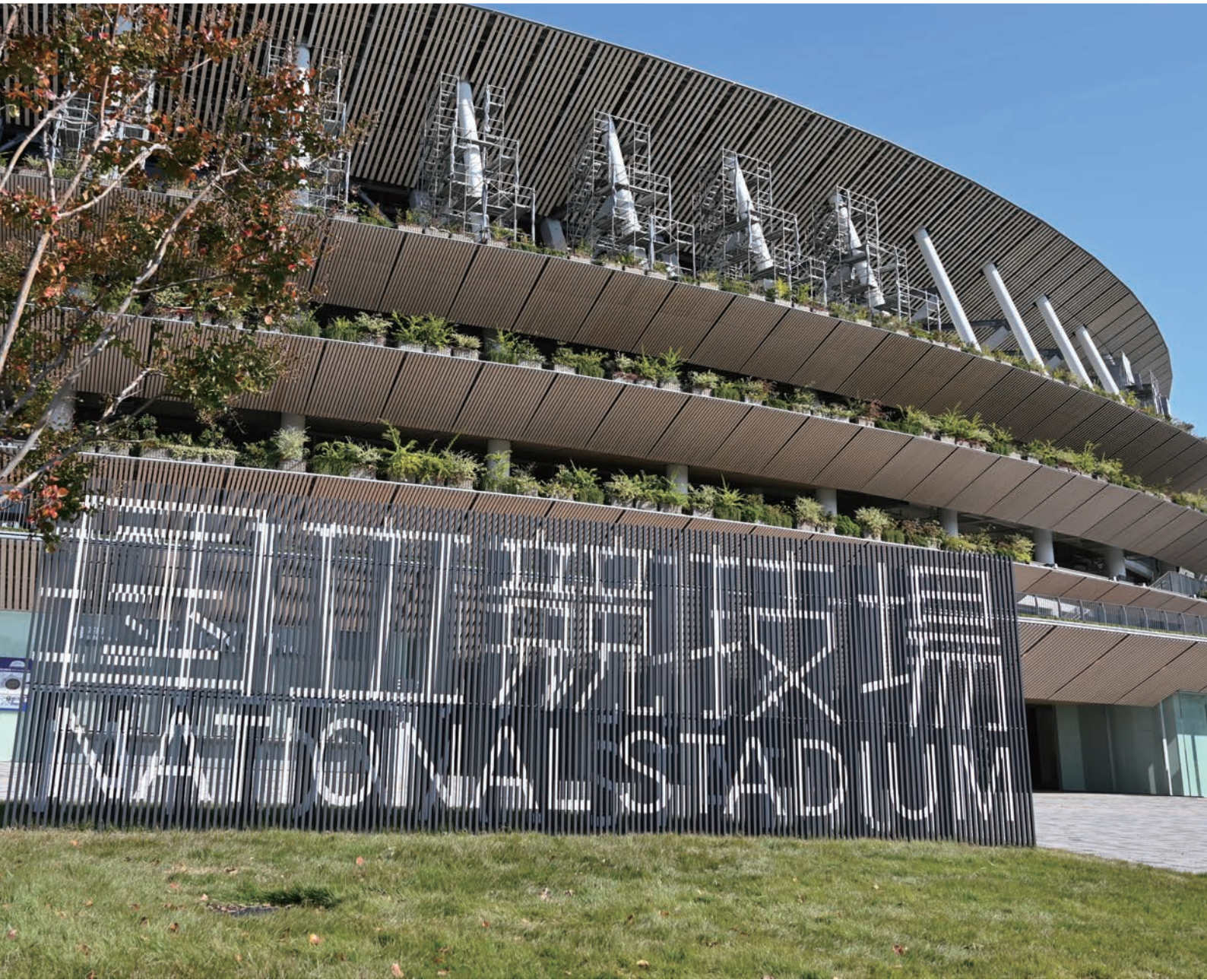


とうきょう

自治のかけはし

公益財団法人
東京都区市町村振興協会
No.37



TOKYO

■ グラビア

[テーマ] 「東京2020オリンピック・パラリンピックの遺したもの」

●豊島区●港区●墨田区●渋谷区●小金井市●武蔵村山市

●立川市●東久留米市●新島村●日の出町●大島町——— 1

■ 論考

「東京2020オリンピック・パラリンピックの遺したもの」

日本の力で、「やってよかった大会」になりました——— 増田明美——— 8

■ トピックス

「新宿区におけるオリパラ教育」——— 新宿区——— 12

オール東京62市区町村共同事業

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」について

主催 特別区長会・東京都市長会・東京都町村会

企画・運営 公益財団法人特別区協議会・公益財団法人東京市町村自治調査会——— 16

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について——— 東京都——— 20

東京都市長会

「多摩地域における行政のデジタル化」と「多摩26市間の職員交流」について

東京都市長会事務局——— 26

『創立100年を迎えた東京都町村会』——— 東京都町村会事務局——— 30

■ インタビュー

[わたしと東京]——— 伊東四朗——— 34

■ 区市町村だより

歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の^{ふみ}京^{みやこ}」——— 文京区——— 38

子どもが輝く参加と協働のまち せたがや——— 世田谷区——— 40

つながり、共に創るまち こだいら——— 小平市——— 42

愛情ギュッと ず〜っと はむら 東京で子育てしやすいまち ——— 羽村市——— 44

めざすべき村の将来像 行ったり、来たり、御蔵島——— 御蔵島村——— 46

■ ずいそう

SPORTS & SUPPORTS スポーツと人情が熱いまち 江東区

江東区長 山崎孝明——— 48

「魅力あふれ ひとがつながる 文化都市国分寺」を目指して

国分寺市長 井澤邦夫——— 50

人と自然に癒されるまち「奥多摩」——— 奥多摩町長 師岡伸公——— 52

公益財団法人

東京都区市町村振興協会の活動状況——— 54

幸運の女神 飯本 日菜子

編集後記

表紙の写真：「国立競技場」（新宿区）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、開会式・閉会式、陸上競技の会場として使用されました。

「自然に開かれた日本らしいスタジアム」を舞台に、各国のアスリートの熱戦が繰り広げられました。

【テーマ】

東京2020オリンピック・パラリンピックの 遺したもの

1年の延期を経て、オリンピック・パラリンピック競技大会が開催された東京。困難な状況下での開催となりましたが、多くの人に支えられて大成功を収めました。今大会が東京に遺したかけがえのない「レガシー」をご紹介します。

【豊島区出身アスリートの活躍とレガシーの創出】 豊島区

東京2020オリンピック競技大会において、豊島区出身のアスリートが輝きを放ちました。スポーツライミング女子複合で野中生萌選手、女子ゴルフで稲見萌寧選手が見事銀メダルを獲得し、豊島区民に多くの感動と勇気を与えてくれました。無観客での開催となり、競技会場で声援を直接届けることはできませんでしたが、多くの方に応援のメッセージを記載いただいたフラッグを選手に届けるなど、豊島区が一体となって選手を応援しました。

区では、野中選手と稲見選手の功績を称え、令和3年11月1日に豊島区文化栄誉賞を贈り、表彰を行いました。より多くの区民の皆様が野中選手と稲見選手の功績を伝え、後世に引き継いでいくとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じて高まったスポーツ気運を大切に、子どもから大人まで幅広い世代の方がスポーツに親しむことができる環境作りを進めていきます。



野中選手メダル獲得報告

【MINATOシティハーフマラソンの創設及び継承】 港区

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成を図るとともに、子どもから高齢者まで、国籍、障害の有無の区別なく、多くの区民が参画できるスポーツを通じた地域共生社会の実現を目的として、MINATOシティハーフマラソンを創設し、第1回大会を平成30年12月2日（日）に開催しました。また、令和元年12月1日（日）には、第2回大会を開催し、前回は上回る多くの人々にご参加いただきました。大会を支える多くのボランティアや医療関係者等に参加していただくとともに、区がこれまで培ってきた企業との連携により、多くの協賛企業のご協力をいただきました。

東京2020大会後も、このMINATOシティハーフマラソンを地域ぐるみで世界に誇れる大会へと創り上げ、また、育てていくことによって、参画と協働の輪を広げ、コミュニティの活性化、企業連携の更なる推進、港区への愛着と誇りの機会の創出につなげていきます。

※令和2年度、3年度の大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。



スタート



ボランティア



企業協賛ブース

[フランス共和国パリ市やジンバブエ共和国、イギリスなどとの国際交流の継承]

港区

区は、2024年パリ大会を契機に「泳げるセーヌ」の復活をめざすパリ市と平成30年に連携協定を結び、パリの夏の風物詩である「パリ・プラージュ」にちなみ、海水浴イベント「お台場プラージュ」を開催しています。

イベントの実施に加え、両区市は「都心における水浴実現」という共通の目標に向かって水質改善の知見を共有するなど、貴重な都心の水辺を守り、住民の憩いの場として育てていくための様々な連携をしています。

これからも、共通の想いを持つ両区市の交流を大切にしていきます。

また、令和2年5月に、区は、ジンバブエ共和国を相手方とするホストタウンとして、内閣官房に登録されました。

区立白金の丘学園では、ホストタウンアドバイザーによる同国に関する授業や、同国の料理を再現した給食等を実施しました。また、東京2020大会では、コロナ禍で直接的な接触を伴う交流が制限される中、パラリンピック出場選手に向け、同学園の児童からの応援動画を送るなどの形で交流を図りました。



お台場プラージュの様子



ジンバブエ共和国の料理を再現した給食

区は、東京2020大会が開催される間、区立お台場学園をイギリス選手のトレーニングや身体のケアを行う場として提供しました。

大会前には、イギリスの体操チームやフェンシングチームなどに子どもたちに向けて競技のデモンストレーションをしてもらったり、子どもたちが日本の踊りを披露したり、対面での交流を実施してきました。

大会期間中には、子どもたちが学校を飾り付けして選手を歓迎し、選手とビデオメッセージやサインフラッグの交換など、感染症対策を踏まえた非接触での交流を実施することができました。



ホストタウンアドバイザーによる授業の様子



体操チームと区民との交流



フェンシングチームと区立お台場学園との交流



子どもたちによる歓迎の飾り付け

大会終了後も、大会を通じて生まれた繋がりを大切に、これまでの交流を継続するとともに、地域の人々との交流も図り、お互いの歴史や文化を知り、様々な国との相互理解の促進につなげていきます。



校舎のブランディング



ボクシング日本代表選手による表敬訪問



ボクシング競技実施の正式決定に伴う決起大会

[地域をつなげる、ボクシングの実施] 墨田区

東京2020大会を契機とした地域活性化に向けて、平成29年9月に区、区民、区内関係団体等が参画する「墨田区オリンピック・パラリンピック地域協議会」を設立しました。

平成30年2月、国際オリンピック委員会（IOC）が本区を競技会場とする「ボクシング」の東京五輪実施競技からの除外を示唆したことから、区や当協議会等は日本ボクシング連盟と連携し、競技実施に向けた署名活動を行い、区内で2万人を超える署名を集めました。その結果、令和元年6月のIOC総会において、「オールすみだ」で応援したボクシング競技の実施が正式決定され、東京2020大会では、日本代表選手が過去最高の成績を収めました。

大会後も区ではボクシング競技を通じて、区民の健康増進や一層のスポーツ振興に向けた取組みを推進していきます。



競技実施に向けた署名活動



令和3年3月7日
ポッチャ渋谷カップ

[パラリンピック競技の普及・推進] 渋谷区

渋谷区は、区内開催協議を中心にパラリンピック競技を、観て、知ってもらうために、パラリンピックPR紙芝居やリアル観戦事業等を実施し、応援へとつなげてきました。また、身近な地域のイベント等での競技体験や選手との交流、ポッチャ渋谷カップを開催し、競技の魅力を感じていただきました。さらに、区独自のパラ教育やボランティアへの参加等で、障がい者理解を促進し、選手を支援してきました。今では、パラスポーツの認知度が高まり、身近なものになりつつありますが、今後も継続してパラスポーツを普及推進し、誰もがスポーツを楽しんで、支え合う「ちがいをちからに変える街。渋谷区」の実現を目指します。



令和2年12月4日
車いすラグビー練習会后清掃



平成30年10月20日
渋谷区長杯第2回渋谷区車いすラグビー大会



聖火ランナーとの座談

【報告会】 小金井市

令和3年10月31日、小金井宮地楽器ホールにおいて「小金井市東京2020大会報告会」を実施しました。報告会では、大会に向けて実施してきた数々の機運醸成イベント、オリンピック聖火のトーチキス、自転車競技（ロード）、パラリンピック聖火の採火式の模様や、ボランティアの感想、聖火ランナーや大会に出場された選手によるメッセージ・質問コーナー、観覧者にも登壇いただいたのデモンストレーションを行いました。小金井市として大会を総括するイベントでしたが、参加された方からは「とても楽しかった。」「一生の宝物になった。」との感想もいただき、大会そのものと合わせて良い思い出になるとともに、改めて、スポーツの楽しさを実感したひと時となりました。



吉田健人選手（フェンシング・サーブル男子）によるデモンストレーション



小田島理恵選手（車いすバスケットボール女子）によるデモンストレーション



平成30年度ホストタウン交流事業
デエダラまつり会場にて

【ホストタウン交流】 武蔵村山市

武蔵村山市は、東京2020大会においてモンゴル国のホストタウンとなり、これを契機としてモンゴル国の首都ウランバートル市にあるハンオール区と、子どもたちを中心とした文化・スポーツ交流を行っています。

平成30年度には、モンゴル国の子どもたちが当市を訪れ、市民まつりや相撲大会を通じた交流を行い、令和元年度には、当市の子どもたちがモンゴル国を訪問し交流を行いました。今年度は、東京2020大会の観戦ツアーを企画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまいました。

今後も実際の行き来は難しい状況が続くかもしれませんが、オンライン等での交流を図り、両国の友好を深めていきたいと思えます。



令和元年度ホストタウン交流事業
乗馬体験



令和元年度ホストタウン交流事業
モンゴル相撲選手との試合

[聖火に繋いだみんなの思い] 立川市



それぞれの思いを込めた短冊に点火

残暑厳しい令和3年8月20日。抜けるような夏空の下、パラリンピック聖火「立川市の火」採火式を実施しました。

立川市では、市内で活動する4つの障害者福祉施設が独自の方法で事前に採火した炎を、市民から募集したパラリンピックや共生社会実現への思い・願いを書いた短冊に点火することで採火しました。各障害者福祉施設では手作りトーチを用いての採火や、製パン事業で使用するピザ窯からの採火等、それぞれの特色を活かした手法を用いて炎をご用意いただきました。

障害の有無に関わらず多くの方が協力して採火した「立川市の火」は、たくさんの思いを乗せて国立競技場に煌めく聖火の一部になりました。パラリンピックが終了した今もなお、多様性を尊重しあう共生社会実現への道筋を明るく照らし続けているものと確信しています。



立川市の火を採火する市長



完成した立川市の火

[東京2020オリンピック・パラリンピックの遺したものの]

東久留米市

令和2年の夏、東京2020オリンピック・パラリンピック大会が1年延期され、学校生活では、夏休みの短縮や黙食での給食など、子どもたちの楽しみが奪われていく中「小中学生を応援したい」という声が上がりました。そこで、有名アスリートや著名人からの、応援のビデオメッセージとオリンピック・パラリンピック大会記念ボトルの飲料水を小中学生に届けました。子どもたちの喜ぶ姿と、その様子を見た大人たちの笑顔にふれ、大会が持つ、多くの人に夢と希望を与えてくれる力を改めて感じました。令和3年10月には東久留米市スポーツ健康都市宣言を行いました。大会をレガシーにだれもが健康で活気に満ちた地域の実現をめざします。



スポーツ健康都市宣言銘板



ビデオメッセージ



ビデオメッセージ視聴の様子（第九小）

[東京2020オリンピック聖火リレー 新島] 新島村



東京2020オリンピック聖火リレーが、2021年7月15日新島において開催され、大島支庁新島出張所駐車場から新島港船客待合所前広場までの海沿い約1kmのコースを、沿道で島民が応援する中、3名の聖火ランナーが走り抜けました。

新島小学校児童によるサポートランナーの走行が聖火リレーを盛り上げ、ゴール地点で行われたミニセレブレーションでは、新島風神太鼓の演技が披露され、人数制限された中でしたが、賑やかに暖かい雰囲気、次の式根島のランナーへ聖火を繋ぐことができました。



[東京2020オリンピック聖火リレー 式根島] 新島村



新島からの聖火は、式根島に繋がり、式根島郵便局前から泊海岸海水浴場駐車場までの約1kmのコースを、

沿道で島民が応援する中、3名の聖火ランナーが走り抜け、アンカーは、元新体操オリンピック代表 畠山 愛理さんが務め、式根島小学校児童によるサポートランナーと共にゴールし、島民が見守る和やかな聖火リレーとなりました。

また、ゴール後には畠山さんとのフォトセッションが行われ、参加者とのショットはとても思い出に残るものとなりました。

初めて来島した聖火は、たくさんの島民に誇らしい思いを遺し、東京2020オリンピックの聖火台に繋がっていきました。

[オリンピック聖火リレー] 日の出町

「希望の道を、つなごう」をコンセプトに福島県をスタートした、東京2020オリンピック聖火リレーは、令和3年7月9日から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、東京都では島しょ部を除いて公道でのリレーから、日程ごとのセレブレーション会場での、無観客による点火セレモニーに形を変えて実施されました。

日の出町は、瑞穂町の瑞穂ビューパークの特設ステージに集い、田村町長からランナーのトーチに点火され、全てのランナーがつなぐ「トーチキス」により、聖火を無事にリレーすることができました。

7月23日の開会式では、様々な思いが込められた聖火が、文化や国籍を越えた「平和・団結・友愛」の理想とともに聖火台に灯されました。

世界が一つとなり、未知のウイルスと戦った、記憶に残る大会となりました。



オリンピック聖火リレー

[ふれあいスポーツ ボッチャ] 日の出町



ボッチャ

日の出町では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の正式種目であるボッチャに取り組んでいます。

その取り組みの一つとして、ふれあいスポーツ教室があります。ふれあいスポーツ教室は、スポーツを通じて障がいをお持ちの方々の体力増強・交流・余暇の充実を目的とした試みで、地域活動支援センター日の出町ユートピアひまわりホーム及びユートピアサンホームの利用者の方々が数年前から参加されています。

ふれあいスポーツ教室では、ボッチャの投げ方練習を兼ねた的当てゲームや、八角的を使った練習の後、チームに分かれての対戦を行い、熱戦を繰り広げる参加者の皆さんからは多くの笑顔が見られます。

今後もボッチャを通じてパラスポーツの魅力と、地域のふれあいの輪を広げていきます。

[パラリンピック採火式] 日の出町

「あなたは、きっと、誰かの光だ」のコンセプトに基づき実施された東京2020パラリンピック聖火リレーに伴い、令和3年8月20日に都内各自治体で採火イベントが実施されました。

日の出町では、地域活動支援センター日の出町ユートピアひまわりホーム及びユートピアサンホームの施設内におきまして採火式を開催し、施設利用者の皆さんが作ったバーベキュー用の薪を燃やして採火を行いました。

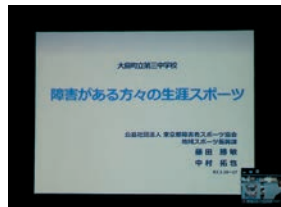
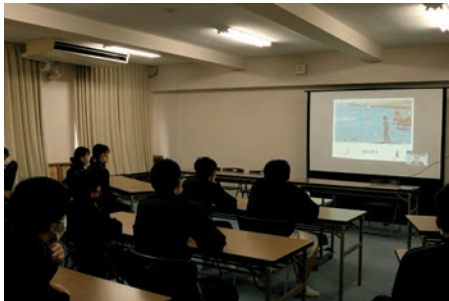
お互いが誰かの希望や支えとなり「多様性と調和」を理想とする共生社会の実現の願いとともにランタンに移された火は、東京都の集火式に届けられ、東京の火として8月24日の開会式で聖火台に灯されました。



採火式

[オリンピック・パラリンピック教育 「障害者スポーツ体験教室」大島町立第三中学校の取組]

大島町



大島町立第三中学校では、令和3年2月16日（火）、17日（水）に、令和2年度オリンピック・パラリンピック教育推進事業の一環として、「障害者スポーツ体験教室」を開催しました。東京都障害者スポーツ協会の方にオンラインでの講義をしていただき、障害者の方たちの生活やスポーツとの関わり方について、理解を深めることができました。視覚障害者

が実際にどのように見えているのか、車椅子で生活をする方々にはどのような配慮が必要なのか、映像を通して様々な例を挙げながら説明していただきました。私たちの身近にある、点字ブロックや車椅子専用駐車場の意味についても解説していただき、実生活にも役立つ内容でした。生徒の感想には「(困っている人がいたら)私達から声をかけてあげるといふ一歩が大切だと感じさせてもらいました。」という言葉がありました。

後半は、保健体育の授業の一環としてパラリンピック競技の体験をしました。肢体不自由の人たちが行うボッチャを実際に試合形式で行い、視覚障害者スポーツの体験としてブラインドサッカー（パラリンピック競技種目としては5人制サッカー）の体験をしました。ボッチャでは、利き手を使わずに行ったり、足でボールを転がしたりするなど、その不自由さを体感しながら競技をおこないました。ブラインドサッカーでは、転がると音が鳴る、鈴の入ったボールを使います。今回、東京都障害者スポーツ協会から実際の公式球をお借りして練習をしましたが、音を頼りに動くのはとても難しく、何よりコミュニケーションの重要性を感じました。視覚を奪われた状態で動くことの大変さを経験するとともに、情報を伝える難しさにも気づくことのできる時間となりました。

講義や体験を通して、障害者スポーツおよび障害者の方たちの生活が、より身近なものとして感じられるようになりました。知識や経験だけで終わらずに、生活に役立てられるようにしていきたいと思えます。東京都障害者スポーツ協会の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。



「東京2020オリンピック・パラリンピックの遺したもの」

日本の力で、「やってよかった大会」になりました

増田明美さんは1980年のロサンゼルスオリンピック女子マラソンに出場し、1992年のバルセロナ大会からは解説者としてオリンピックにかかわっています。90年代から障がい者のマラソン大会をサポートし、現在は日本パラ陸上競技連盟会長も務める増田さんは、コロナ禍の難題をかかえながら開催した東京2020オリンピック・パラリンピックをどうとらえたのでしょうか。オリパラで継承されるべきこと、障がい者スポーツの魅力や展望などについて語っていただきました。

強い心を持って挑んだ
選手を讃えたい

新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催前は反対意見もあり、社会が分断されてしまったような残念な空気でした。選手たちにも不安や葛藤がありました。でも、開催してみれば選手たちのウソのない、全力のパフォーマンスからいいものをたくさんもらいました。文句なく元気をいただけましたし、感動もたくさんありました。去年が、「オリンピックをやってよかったなあ」と思える年になって本当によかったです。



東京パラリンピック表彰式にプレゼンターとして参加

増田 明美さん (スポーツジャーナリスト)

また、日本でなければ全行程を無事に遂行できなかったでしょう。東京だから安心・安全にできたことがうれしい。まさかのコロナ禍でいろいろありましたけど、きちんと責任を果たすことができ、世界に対して日本はやはり堅実な国だと認められて、とてもよかったと思っています。

自己ベストを出す選手がたくさんいました。中止はたまた1年延期かという状況での開催で、しかも無観客で、コンディションを合わせてモチベーションをピークに持つていくことはとても難しかったと思います。陸上競技でも男子3000メートル障害の三浦龍司さん、女子1500メートルの田中希実さん、女子5000メートルの廣中璃梨佳さん：日本記録が誕生しました。勢いのある空気にふれて、日本中がとても元気になりましたね。

大会前、選手たちに話を聞くと、「今」だよねと、どの選手もそう言いました。今日の練習をしっかりと行い、今日できたら明日の練習をすることを積み重ねて、素晴らしい結果を残した選手たちを讃えたいです。

パラ競技の「想像」と「創造」

今回大会は、多くの国民がパラスポーツ競技をテレビで観戦しました。

私も競泳から観戦しました。背泳ぎの山田美幸さんが登場しました。生まれたときから両腕がな

く両足にも障害があり、左右の足の長さが違う。いったいどうやって泳ぐの？」と「想像」しながら見つめていると、美幸さんの「創造」を目の当たりにしました。しっかりと体幹を軸に、左右で足の動かし方を変えながら泳ぐ姿に目を見張りました。卓球でも両腕のない選手がいました。どうやって球を打つの？ 口でくわえる。そうか、足も使うのね…人間の叡智と可能性を感じずにはいられませんでした。

パラ選手たちが座右の銘にしているのが、「パラリンピックの父」とされるグッドマン博士の「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」という言葉です。今回、パラ選手たちはそれを見事に体現してくれました。

大切な人との別れや死、病気…生きていればさまざまな喪失を体験するものです。選手のエネルギーにふれ、「あるもの」を大事に今を生きる希望を与えてもらった、幸せな夏の時間でした。

パラ教育に込められた期待

今回大会で東京都は、パラリンピックについて学び、パラリンピックを通じて多様性を学ぶ「パラリンピック教育」に積極的に取り組みました。出前授業でパラ競技を体験した子どもも多く、私の11歳の甥も「ポッチャ」に夢中。お正月には80歳のおばあちゃんとポッチャを楽しみました。

近年、年齢をとっても障がいがあっても、子ども

も大人もみんなと一緒にできる「ユニバーサルスポーツ」が一般的になってきています。ポッチャはまさにユニバーサルスポーツですね。パラアイスホッケー元日本代表の上原大祐さんも、「温泉ピンポン」のように「温泉ポッチャ」の時代が来る」とおっしゃっていました。楽しみです！

実は私、細川佳代子さんから引き継いで日本フロアホッケー連盟の会長も務めています。これもユニバーサルスポーツの一つ。ドーナツ型のパットの穴にモップの柄のようなスティックを差し込んで、それを動かしてドリブルやパスやシュートをします。バックは軽いし転がっていかないので、子どももお年寄りも障がい者も大丈夫。今回パラリンピックを通して、スポーツのすそ野が広がったと思います。ご自分にできるスポーツを楽しんで、運動習慣ができるといいですね。

それから最近、街行く人が少し優しくなったように感じるんです。白杖を持っている人に声をかける人の姿をしばしば見かけます。バリアフリーはハード、ソフトともに東京オリンピックで進んだのではないのでしょうか。

大会期間中、水泳会場の観客席で編み物に熱中しているイギリスの飛び込みの選手がいらっしましたね。LGBTQ（性的マイノリティー）を自ら公表した選手は前回大会の3倍以上で、過去最多だったそうです。以前から、平成、令和の子どもたちは、昭和の私たちより断然、多様性を

自然に受け止めていると感じていましたが、自国開催の五輪で多様性にあふれるオリパラ選手を見て、さらに共生社会への意識は高まったのではないのでしょうか。パラ教育をオリパラのレガシーに、これからの超高齢化社会が優しさにあふれる時代となることを願っています。

選手の後ろには支える家族がいる



平成4年に現役を引退し、選手時代のことを書いた文章を通信社に持ち込んだのが、スポーツライターとしての私の始まり。書くためによく取材をしたことが、取材をして解説をする私のスタイルの原点です。

解説で一番大切にしているのは、選手の後ろには支える家族がいるということ。特にオリンピックのような思いの強い大会ではそれを感じます。女子マラソンの鈴木亜由子さんは、精がつくように二人のおばあちゃんが黒ニンニクを作ったり、近所の観音様に毎日お参り。どの選手も同じで、家族に支えられている自分自身を意識しています。ただ、伝えてほしいことは選手によって違います。今回の目標とそれに対する練習内容を伝えてほしいという人、ケガを乗り越えてどれだけ頑張れるかを見てほしいという人もいますから、レー

ス前には必ず、一番見てほしいところを選手に聞きます。なかには子どもとき小倉百人一首の九州大会で一番になったことが誇りと話す選手も。萩谷楓さん(女子5000M代表)は、オリンピックのときはカエル(帰る)、プリンス駅伝のときはパンプキン(金と)、試合に合わせてピアスを変えています。素顔や人柄を感じるエピソードをお伝えすることもあります。

若い選手とのふれあいは私のパワーになっています。彼女たちと接していると、自分がどんな大人でなければいけないか、私の話し方、雰囲気はどうとらえているのかがわかり、自分を振り返ることができます。最近はどこに行っても年長者になってきましたから、自分を客観視できる空気にふれていたいと思います。

ジョギングで景色に会いに行く

毎日夫と芝公園を走っていますが、走る人が増えましたね。コロナ禍の自粛で、健康のために手軽にできるウォーキングやジョギングを始めた人が増えたのはうれしいことです。

私は、景色に会いにいくような感じで芝公園を走っています。東京タワー、増上寺、季節の花々、夕日に照らされる銀杏の落っばのじゅうたん：を見ながら走っていると、イライラやモヤモヤが消え、心の贅肉が落ちて浄化される感じがです。

平成19年に始まった東京マラソンを機に、市民

ランナーが増えました。早歩きでもゴールできる7時間という制限時間のおかげで、受け皿が一気に広くなりました。東京を観光するような気持ちで走ることができるよう魅力です。都市マラソンは大阪や福岡でも始まり、マラソンが市民化されたのはうれしいことです。大会に備えて走り始め、脚腰が強くなると健康維持につながります。人生100年時代、健康寿命を延ばすことにも一役かっているのではないでしょうか。ジョギングの語源は「ジョイ」と「ランニング」が合わさった「ジョイランニング」。走るときは、会話ができるくらいの速さで楽しんでくださいね。



旅ランを楽しむ(スイス・サンモリッツにて)

オリパラを見て運動を習慣にしたいと思った方は、歩くだけでも十分ですよ。東京は緑も花も多く、ウォーキング、ランニングスポットがたくさんあります。私は、選手でNEC時代は井の頭公園を、大学時代は高尾山を走りました。最近「旅ラン」がブームです。健脚自慢たちは、銭湯やグルメを楽しみながら東京観光をしています。私も先日、ジョギング友達でもある小説家の角田光代さんと、レインボーブリッジからお台場を旅ランしました。台場は江戸幕府が造った砲台という説明書きにふむふむ。東京には歴史散歩をするコースもたくさんありますね。

たわむれ、楽しむのが オリンピックの原点

今回大会で新しくできた江東区の海の森水上競技場、有海アーバンスポーツパーク、江戸川区のカヌー・スラロームセンター、品川区の大井ホッケー競技場などはレガシーとして残り、都民に開放する方向だというニュースを聞きました。

オリパラ施設を多く持つ江東区の山崎孝明区長は、招致が決まったときからパラ選手の練習環境を確保するための支援をしてくださいました。あるとき山崎区長にオリンピックに熱い理由を尋ねました。前回大会のときは早稲田大学の学生。選手村の食堂でのアルバイトで世界各国の選手とふれあい、閉幕後、別れのときに涙がとめどもなく

あふれたという山崎区長。オリンピックでのグローバルな体験がスポーツを応援したいという気持ちを強くしたのだそうです。これからもスポーツを応援する取り組みをしたいという江東区の会議に出させていただくようになって、「江東区はスポーツガーデン」というキャッチコピーの名づけ親になりました。みんながわいわいと色とりどりにスポーツを楽しむイメージです。

今回、スケートボードやスポーツクライミングの選手が、果敢に攻めて失敗してしまった選手を讃える姿を見て、スポーツの語源であるラテン語の「デポルタレ」を思い出しました。たわむれる、気晴らしをする、休養する、楽しむといった意味です。これからオリンピックの正式種目に加わるスポーツの条件は、若者に支持されていること、都市型であること、男女平等であること。この3つだと、東京五輪で組織委員会の副会長を務めた荒木田裕子さんがおっしゃっていました。パリ五輪にはブレیکن（ブレイクダンス）が入ります。そのうちeスポーツも入ってくるかもしれませんね。

一方で、今回大会で実施された空手・喜友名諒さんの、鍛錬に鍛錬を重ねた技が醸し出す気迫にはじびれました。これからの五輪は、柔道や空手といった伝統競技を残しながら、時代の新しい風が入って形づくられていくように思います。

パラ陸上をこれからも盛り上げたい！

昭和56年に『エイボン賞』のスポーツ賞をいただき、同賞の女性大賞を受賞した姥山寛代さん（地域福祉研究会ゆきわりそう会長）と出会い、知的障害や自閉症の子どものためのジョギング教室を開くようになりました。一つのこと集中して頑張る子どもたちなので、目標を設けようとしたのが障害者中心のマラソン大会「夢伝」です。平成5年から年2回、4月に練馬区光が丘公園、8月に八丈島で行っています。地元の老人ホームや小学校からも参加や応援で人が集まり、ホイイスを押ししたり、手を引いたりとかちゃませの大会は、絵に描いたような共生社会。ゴールゲートも何もかも手作りです。スタート時には地元の方がトランペットを吹いてくれます。名前のとおり、

夢を伝えあいながら自分のゴールに向かって走り、みんなが元気になる大会です。

現在、日本パラ陸上競技連盟の会長を務めています。今回大会は金メダル2つ、銀が3つ、銅が6つで、自己ベストもたくさん生まれました。パラリンピックの最終日、女子マラソン（視覚障害）で、道下美里さんが金メダルをとり、東京のマラソンコースが日の目を見ましたね。スタート時は大雨だったのに、道下さんがゴールしたあの日だけ日が差しました。笑顔の彼女にお天道さんが顔を出したかのようでした。

選手たちの奮闘を自信にして、選手の発掘、強化、普及をスタッフと一緒に進めたいです。今回みなさんに持っていたいたパラ陸上へ関心が絶えないように、選手の応援団長として頑張りたいと思います。

PROFILE



増田明美 ますだ・あけみ

昭和39年年千葉県いすみ市生まれ。私立成田高校在学中、長距離種目で次々に日本新記録を樹立。昭和57年マラソンで日本最高新記録を作る。昭和59年ロサンゼルスオリンピックに出場。平成4年に引退するまで日本最高記録12回、世界最高記録を2回更新。現役引退後永六輔さんと出会い、現場に足を運ぶ取材の大切さを教えられ、大きな影響を受ける。現在はマラソン、駅伝中継の解説に携わるほか、コラムの執筆活動、新聞紙上での人生相談やテレビ番組のナレーションなどでも活躍中。平成29年4～9月にはNHK朝の連続テレビ小説「ひよっこ」の語りも務めた。大阪芸術大学教養課程教授、全国高等学校体育連盟理事、日本パラ陸上競技連盟会長、東京陸上競技協会会長、日本陸上競技連盟評議員、日本パラスポーツ協会理事、日本ダブルダッチ協会会長、日本フロアホッケー連盟会長。

「新宿区におけるオリパラ教育」

新宿区

I 新宿区におけるオリパラ教育の概要

新宿区立学校では、オリパラ教育として様々な文化を学ぶ国際理解の学習とともに、ブラインドサッカー、ゴールボール、シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、ボッチャの5つの種目から1つを選択し、教育課程に位置付け、体験的な学習を行ってきました。

令和2年度の障害者スポーツ体験事業実施後のアンケートでは、「障害者スポーツや障害に対する関心が高まった」と回答した子どもたちが97・5%となっており、学習を通して、子どもたちの障害に対する関心が高まっていることが分かりました。

子どもたちからは、「障害があっても分け隔てなくできるスポーツは、とてもよいと思った。」「何事にも信念をもって最後まで諦めずに工夫して挑戦することの大切さを学んだ。」「といった感想が出されました。

このように、各障害者スポーツ団体や新宿区社会福祉協議会等と連携しながら進めてきた障害者理解教育を踏まえ、東京2020パラリンピック競技大会学校連携観戦をその集大成として位置付け、実施しました。

II 学校連携観戦

1 目的

選手の活躍や大会を支えるボランティアの方たちの姿を実際に「観る」を通して、オリンピック・パラリンピック教育の集大成とする。

2 観戦競技及び会場

(1) 令和3年9月1日から9月3日

陸上競技（トラック&フィールド）

(2) 令和3年9月5日

陸上競技（マラソン）

※会場は、いずれもオリンピックスタジアム



観戦当日のオリンピックスタジアムのフィールド全体の様子



観戦する児童

3 参加人数

(1) 区立小学校児童 計3、660人

第4学年 1、235人

第5学年 1、211人

第6学年 1、189人

特別支援学級 25人

(2) 区立中学校生徒 計 729人

第1学年 324人

第2学年 276人

第3学年 123人

特別支援学級 6人

Ⅲ 学校連携観戦の様子

(1) 安全管理の徹底について

学校連携観戦の参加に当たっては、新宿区教育委員会として、新型コロナウイルス感染症や熱中症の対策を徹底しました。

まず、新型コロナウイルス感染症対策についてです。換気の面を考慮し、屋内会場ではなく、競技会場をオリンピックスタジアムの1か所としました。また、移動は公共交通機関を使わず、全て借り上げバスを利用しました。子どもたちが不特定多数の他者と接触することを避けられるよう計画しました。バスの乗降は、一度に多くの学校が特定の場所に集まらないよう分単位でスケジュールを組み調整しました。さらに、競技会場内では、入場時に検温と手指消毒を行いました。座席は、隣と2、3席程度間隔を空け、前後も重なら

ないように座らせるなど、十分に距離を確保しました。観戦中は、飛沫対策として声を出しての応援を避け、拍手や手拍子、メッセーボードを用いた応援を行いました。

次に、熱中症対策についてです。子どもたちが水分補給を十分行えるよう、水筒を持参させ、会場内でもペットボトルの水を配布しました。また、直射日光が当たることを想定し、東京都から支給された遮光板や新宿区の東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部が配布した冷感タオル等を持参するようにしました。

その他にも、密を作らないための導線の工夫等も行いながら、子どもたちの安全を第一に考え、学校連携観戦を実施しました。

(2) 児童・生徒の様子、感想

オリンピックスタジアムに到着し、観客席からトラックを見下ろした時に、子どもたちは感動を隠し切れない様子でした。

多くの子どもたちが選手の活躍に合わせて拍手を送り、スタジアムで応援できることを喜んでいる様子が見られました。

学校連携観戦後に各校が行ったアンケート調査では、子どもたちからの様々な感想が挙げられました。

△児童・生徒の感想▽

●「あきらめない姿がかっこよかったです。障害あるからといってあきらめず、夢に向かって進んでいるのはすごいと思いました。」



手書きのメッセージボードで応援する児童



手書きのメッセージボードで応援する児童

● 「たくさんのボランティアの方々によってこの大会は支えられていることが分かりました。競技場に入るまでも、入った後も、たくさんの人が手を振ってくれて嬉しかったです。」

● 「新国立競技場は大きいと分かっていただけ、実際に入ってみると想像以上に大きく、圧倒されました。屋根の骨組みは複雑で美しかったです。バスの中よりも涼しく、新国立競技場の構造はすごいと思いました。」

パラリンピアンやパラスポーツを支えるボランティアの人々に向けた称賛の声や、競技場の素晴らしさへの気付きなどの声、その他様々な声が挙がっており、子どもたちは一人ひとりが自分なりの感想をもつことができました。

新宿区立学校では、今回の学校連携観戦の経験を今後の障害者理解教育に生かしていくとともに、今後も障害者スポーツ体験を全校・園で実施し、東京2020大会での子どもたちの学びをさらに深めていきます。

IV 学校連携観戦に不参加だった子どもの様子

新宿区立学校では、学校連携観戦に参加できなかった児童に対して、その心情に配慮しつつ工夫した取組を行いました。

例えば、ある小学校では学校連携観戦当日を「パラリンピック教育の日」と位置付けま



観戦する児童



拍手で応援する児童



観戦を終えた児童



観戦当日のオリンピックスタジアム外観

した。学校連携観戦に参加しなかった子どもたちは、学校でポッチャ大会を開くなどの体験的な活動を行い、楽しみながらパラリンピックの学習を行いました。

また、中学校においても、学校連携観戦に参加した生徒がオリンピックスタジアムで撮影した画像等を用いて、プレゼンテーションを作成し、参加しなかった生徒に向けて紹介する活動を行うなど、当日の観戦の雰囲気や様子を共有できるように工夫した学校がありました。

このように各校では、学校連携観戦に参加しなかった子どもたちに対しても配慮した教育活動を実施しました。

V 総括

東京2020パラリンピック競技大会学校連携観戦に参加した子どもからは、自分の記録に挑戦し続けるパラリンピアンの方に感動したといった声が多く挙がりました。また、当日、会場まで手を振りながら見送ってくれた大会ボランティアの方々の姿を見て、自分も大人になった時にボランティアとして参加したいといった感想も出されていました。

障害者スポーツ体験を軸に実施してきたこれまでの障害者理解教育の学習を踏まえ、東京2020パラリンピック競技大会を観戦したことは、新宿区の子どもたちにとってかけがえない記憶に残る取組になりました。

新宿区立学校では、今後も継続して障害者スポーツ体験を全校・園で実施し、大会のレガシーとして継承していくことができるよう取り組んでいきます。

終わりに、学校連携観戦の実施に当たり、様々ご配慮、ご協力いただきました、東京2020オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の皆様、東京都教育庁指導部指導企画課オリンピック・パラリンピック教育推進担当課の皆様、当日の市民ボランティアを含め関係の全ての皆様に心よりお礼申し上げます。

オール東京62市区町村共同事業

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」について

主催 特別区長会・東京都市長会・東京都町村会
 企画・運営 公益財団法人特別区協議会・公益財団法人東京市町村自治調査会

オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」は、平成19年10月3日の「共同宣言」に基づき、東京で暮らす私たちにとって大きな課題である温室効果ガスの削減やみどりの保全について、東京都内の全62市区町村が連携・共同して取り組む事業です。

詳細は、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのホームページ（ECOネット東京62 <https://all62.jp/>）に掲載しています。

① 都内市区町村の温室効果ガス排出量算定手法の共有化推進

温室効果ガス排出量は、自治体における地球温暖化防止に関する諸施策を検討実施する上で必要不可欠な基礎データです。「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、平成19年に特別区を対象とした「温室効果ガス排出量算定手法」を独自に策定し、その後対象地域を拡大し、平成23年には都内全域を対象とした改定版を策定しました。この手法を都内62市区町村で共有化するとともに、この算定手法を用いて各自治体の温室効果ガス排出

量を算出し、そのデータを都内各市区町村に提供しています。

(<https://all62.jp/jigyvo/ghg.html>)

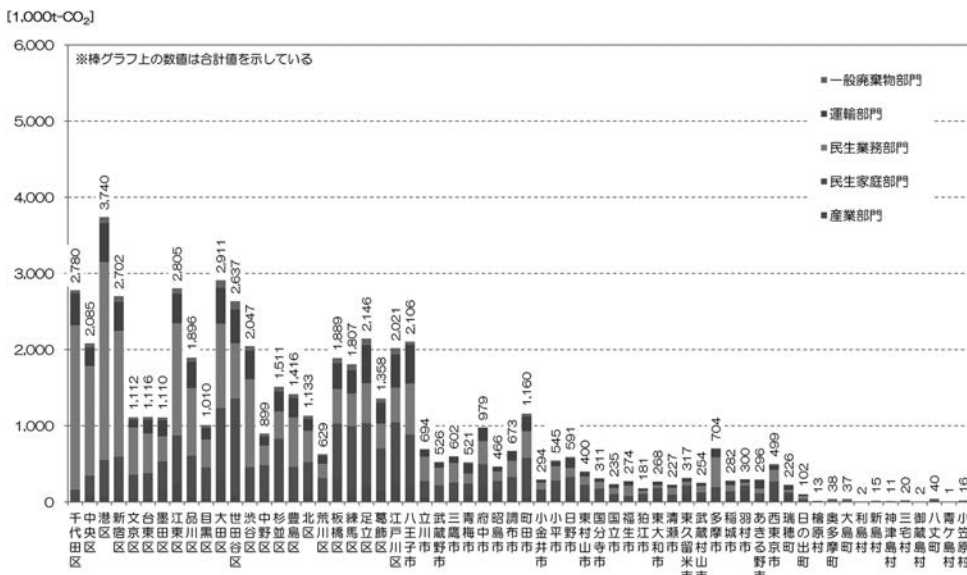
都内各市区町村では、この結果を活用して対策施策の検討や、実行計画の策定等を行っています。今後も、62市区町村で共有化する温室効果ガス排出量の算定手法による算出を各自治体の環境施策の企画や温室効果ガス排出量削減の目標管理に役立てられるようその役割を果たします。

② みどり東京・温暖化防止プロジェクト助成金交付

62市区町村が実施するみどりの保全、地球温暖化防止の取組に対して、助成を行い、各自治体の取組を支援しました。

③ ホームページの維持管理・コンテンツの充実

「ECOネット東京62」は、誰もがいつでもCO₂削減をはじめとする環境負荷低減活動に参加できることを目的につくられた本プ



市区町村別CO₂排出量 (2018年度)

プロジェクトのホームページです。主なコンテンツは次のとおりです。

- ・本プロジェクトの事業内容
- ・62市区町村が本プロジェクトの助成金を活用し実施する事業を紹介する「環境事業紹介」
- ・62市区町村がそれぞれ取り組んでいる環境施策をピックアップして紹介する「東京62市区町村イチョシ環境施策」
- ・62市区町村の環境に関する統計データをまとめた「市区町村環境データ一覧」
- ・62市区町村のホームページに掲載されているエコ情報やイベント情報をまとめた「新着情報・お知らせ」、「イベント一覧検索（イベントカレンダー）」
- ・住民だれもが参加できる62市区町村が実施する環境イベント等をわかりやすく紹介した「みどり東京ニュースレター」
- ・62市区町村の環境に関する情報を各市区町村ごとにまとめた環境インフォメーション

④事業パンフレット作成

本プロジェクトの内容をより多くの方に知っていただけよう、令和3年度事業の概要と令和2年度事業報告等を紹介するパンフレットを作成し、ホームページ「ECOネット東京62」に掲載しています。



▲パンフレット



▲本プロジェクトのホームページ「ECOネット東京62」

⑤気候変動対策に関する調査研究

近年、国内外で気候変動に起因する気象災害が頻発化・激甚化しており、「気候危機」と言われるまでになりました。これを受け、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、気候変動の影響による被害を回避・軽減する「適応策」について、国内外での取組が活発化しています。

市区町村においては、今後、「緩和策」と「適応策」の両面について、これまで以上に広範かつ実効性のある取組が必要になります。また、幅広い分野で取り組む際、それぞれの取組が様々な波及効果を生み出すことも多くあります。そのため、環境保全分野も含めた政策の全体最適化を図りながら、様々な地域課題や地球規模の課題の解決に繋げるという視点も重要です。

本事業は、都内62市区町村が上記のように求められる役割を認識しながら、それぞれの地域特性に合わせた「脱炭素社会」と「気候変動に適応した社会」の実現を目指して研究するもので、2021年度から3か年の事業として実施しています。

1年目となる今年度は、担当者が課題を理解し、課題解決に向けた第一歩を踏み出すことを目的に、参加自治体による研究会を「新しい生活様式」に配慮し、オンライン方式も併用しながら実施しました。研究会は、都内全自治体を対象とした「62市区町村ミーティング」と、登録自治体による緩和策と適応策の2つの「分科会」を中心に活動を進めてい

ます。

「62市区町村ミーティング」では、脱炭素社会や気候変動に適応した社会についての有識者による講演や、研究会のガイダンスを行いました。「分科会」では、先進自治体の事例報告などの情報提供、モデル試行による



研究会の様子

「施設の脆弱性の検証」や「脱炭素化ポテンシャル調査結果」の中間報告やそれらに関連する課題の共有を行いました。

この他にも、希望する自治体に対して個別相談会を実施し、各自治体の環境等にに応じた取組を提案しました。

本研究の成果をもとに、多くの自治体が「緩和策」と「適応策」の推進に取り組みよう、支援してまいります。

⑥オール東京62環境担当者研修会

目的

環境分野を取り巻く情勢が年々変化している中、市区町村が環境行政を効果的に推進するためには、担当する職員等の能力の開発、資質の向上を図ることが従来にも増して重要となっています。このため、環境分野担当職員を対象に日進月歩の環境分野の知見等を基礎自治体向けに整理し、体系的に学ぶ機会として研修会を開催し、都内市区町村における環境行政の向上への一助とします。

事業内容としては、都内62市区町村の環境分野担当職員を対象とした研修会を開催します。詳細は次のとおりです。

・研修内容

環境事務に従事する都内市区町村職員が習得しておくべき基礎的情報や環境施策の課題、先進事例、国内外の動きといっ

た最新の知見等の幅広い内容を提供し、それをもとに参加者が話し合っって連携の機会を作るとともに、担当者間での情報交換の場とします。

・実施回数

年間4回開催（概ね四半期に1回）

・研修時間

半日から1日程度（研修内容に応じて設定）

・実施形式

研修テーマに合わせて講義形式、グループワーク等の適切な方法により実施しますが、集合形式によらずインターネット等による参加方法も積極的に活用します。

【今年度の活動】

・第1回研修会 6月1日（火）

テーマ…「環境法の歴史と概要」・「環境対策における地方公共団体の役割」



講師講評（オンライン研修実施画面）

・第2回研修会 10月8日(金)
 テーマ…「2050年カーボンゼロに向けた内外の潮流と自治体の役割」

・第3回研修会 12月21日(火)
 テーマ…資源循環(C.E)の世界の潮流と自治体の役割

・第4回研修会 2月22日(火)
 テーマ…生物多様性保全と持続可能な利用の推進に向けた自治体の役割



会場参加者の研修風景

⑦市区町村等主催イベントでのPR、普及啓発展示

目的

都内市区町村等が主催する住民祭や環境フェア「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の活動等を紹介するブースを出展し、住民に向けて温暖化防止につながる活動の普及啓発やプロジェクトのPR活動を行い、都内市区町村における環境行政の向上への一助とします。

主な事業内容としては、62市区町村等が主催するイベントの会場内でのみどり・東京温暖化防止プロジェクトのPRやCO₂削減につながる活動の普及啓発を行うことです。

【今年度の活動】

・中野区「なかのエコフェア2021」
 11月13日(土)



ブース全景



メインパネルの説明

・小金井市「環境フォーラム2021 in こがねい」
 11月20日(土)・21日(日)

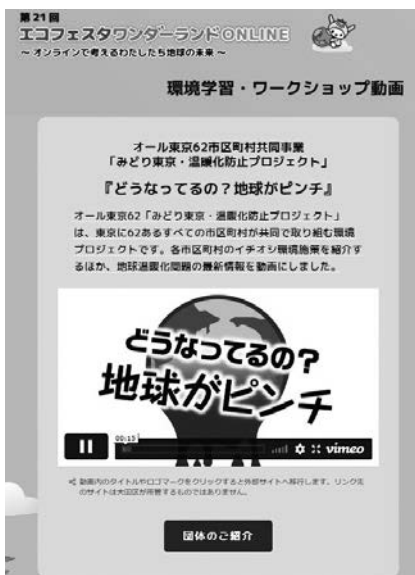


ブース全景



ワークショップでの子どもの様子

・大田区「第21回 エコフェスタワンダーランドONLINE」
 2月1日(火)～28日(月)



大田区エコフェスタワンダーランド ONLINE 環境学習・ワークショップ

・板橋区「第21回 Web版 環境なんでも見本市」(2/1～3/1)
 2月5日(土) ワークショップに出展

東京2020オリンピック・パラリンピック

競技大会について

東京都

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により、史上初めて延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」）が閉幕して半年が経過しました。東京2020大会は、競技の大半が無観客開催になってしまいましたが、世界各国の選手が東京に集まり、連日熱戦を繰り広げ、世界中の人々を大いに沸かせてくれました。

コロナ禍という状況の中、安全・安心な大会を実現するため、都は、国、組織委員会と一体となって新型コロナウイルス対策に取り組むとともに、都民の皆さまにも、テレワークやステイホームを通じて交通量の抑制や人流の減少にご協力いただきました。

招致活動から10年を超える期間にわたり、区市町村をはじめ、関係機関・団体の方々から多大なるご支援・ご協力をいただいたことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

今回は、東京2020大会を振り返るとともに、大会開催に向けて実施したコロナ対策の取組や、大会レガシーを踏まえた今後の取組をご紹介します。

東京2020大会の概要

オリンピックは、令和3年7月23日から8月8日にかけて、42会場で史上最多の33競技339種目が実施され、205の国・地域及び難民選手団から1万1417人の選手が参加しました。

また、パラリンピックは、同年8月24日から9月5日にかけて21会場で22競技539種目が実施され、162の国・地域及び難民選手団から4403人の選手が参加しました。



国立競技場（オリンピック・スタジアム）
※提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター

	オリンピック	パラリンピック
会期	令和3年7月23日（金）～8月8日（日）	令和3年8月24日（火）～9月5日（日）
競技数	33競技 （うち追加競技） 野球・ソフトボール、空手 スケートボード、スポーツクライミング サーフィン	22競技 （うち追加競技） バドミントン、テコンドー
会場数	42会場（都内24会場、都外18会場）	21会場（都内15会場、都外6会場）
参加国等	205の国・地域及び難民選手団	162の国・地域及び難民選手団
参加人数	選手11,417人（うち日本選手団583人） 女性選手の割合約49%	選手4,403人（うち日本選手団254人） 女性選手の割合約42%
観客	【無観客】東京・埼玉・千葉・神奈川 北海道・福島 ※学校連携観戦は実施：茨城 【有観客】宮城・静岡	【無観客】静岡 ※学校連携観戦は実施：東京・埼玉 千葉

東京2020大会がもたらした価値		
	東京2020オリンピック (7月23日～8月8日・33競技339種目)	東京2020パラリンピック (8月24日～9月5日・22競技539種目)
世界中からアスリートが参加	過去最多と並ぶ 205 の国・地域と難民選手団 合わせて選手約 1万1,000 人が参加	リオ大会を上回る 162 の国・地域と難民選手団 合わせて選手約 4,400 人が参加(選手数過去最多)
高いパフォーマンスを 発揮	世界新記録が 26 個誕生 ※ボートの世界ベスト6種目を含む	世界新記録が 158 個誕生
史上最も多様な あふれる大会	性的マイノリティー(LGBTQ)であることを明かして参加する選手の数が、 過去最多の 186 人に(2016年リオ大会の3倍)	
日本選手団の 活躍	過去最多の総メダル 58 個を獲得 (これまでの最多は2016年リオ大会の41個)	過去2番目の総メダル 51 個を獲得 (過去最多は2004年アテネ大会の52個)
コロナによって分断された世界を、スポーツの力で一つにした大会		

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
東京都ポータルサイト「東京2020大会について」より

〈大会がもたらした価値〉
この大会は、コロナによって分断された世界をスポーツの力で一つにし、世界中の人々に勇気と希望をお届けすることができました。

東京ゆかりアスリート等のメダリスト

オリンピック

※は都が発掘・育成・強化するアスリート

選手名	競技	種目	順位
乙黒 拓斗*	レスリング	男子フリースタイル65kg級	金
須崎 優衣*	レスリング	女子フリースタイル50kg級	金
向田 真優	レスリング	女子フリースタイル53kg級	金
新井 千鶴*	柔道	女子70kg級	金
		混合団体	銀
ウルフ アロン	柔道	男子100kg級	金
		混合団体	銀
大野 将平	柔道	男子73kg級	金
		混合団体	銀
菊池 涼介	野球・ソフトボール	野球	金
近藤 健介	野球・ソフトボール	野球	金
鈴木 誠也	野球・ソフトボール	野球	金
山崎 康晃*	野球・ソフトボール	野球	金
堀米 雄斗	スケートボード	男子ストリート	金
オコエ 桃仁花*	バスケットボール	女子	銀
本橋 菜子*	バスケットボール	女子	銀
平野 美宇	卓球	女子団体	銀
田代 未来	柔道	混合団体	銀
渡名喜 風南*	柔道	女子48kg級	銀
稲見 萌寧	ゴルフ	女子個人ストロークプレー	銀
野中 生萌*	スポーツクライミング	女子複合	銀
村上 美愛*	体操競技	女子種目別ゆか	銅
張本 智和	卓球	男子団体	銅

パラリンピック

選手名	競技	種目	順位
山崎 悠麻	バドミントン	女子ダブルス WH1-WH2	金
		女子シングルス WH2	銅
高橋 和樹	ボッチャ	混合ペア BC3	銀
富田 宇宙	水泳	男子400m自由形 S11	銀
		男子100mバタフライ S11	銀
		男子200m個人メドレー SM11	銅
赤石 竜我	車いすバスケットボール	男子	銀
澤田 優蘭	陸上競技	4×100mユニバーサルリレー	銅
廣瀬 隆喜	ボッチャ	混合チーム BC1/BC2	銅
天摩 由貴	ゴールボール	女子	銅
伊藤 慎紀	卓球	女子シングルスC11	銅
米岡 聡	トライアスロン	男子PTVI	銅
池 透楊	車いすラグビー	混合	銅
小川 仁士	車いすラグビー	混合	銅
倉橋 香衣	車いすラグビー	混合	銅
中町 俊郎	車いすラグビー	混合	銅
乗松 聖矢	車いすラグビー	混合	銅
長谷川 勇基	車いすラグビー	混合	銅
菅野 浩二	車いすテニス	クアードダブルス	銅

① 東京アクアティクスセンター

◆日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場
・国内外の主要な国際大会を開催
・水泳の裾野拡大と世界を目指すアスリートを育成
(2020年2月竣工)

② 海の森水上競技場

◆アジアの水上競技の拠点
・水上スポーツ体験の機会提供等による水上競技の裾野拡大
・ユニークベンチャーとして、イベント会場としても活用
(2019年5月竣工)

③ 有明アリーナ

◆東京の新たなスポーツ・文化の拠点
・コンセッション方式による管理運営
・5GやARなどの最先端技術を活用したイベント等も開催
(2019年12月竣工)

④ カヌー・スラロームセンター

◆国内初の人工スラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しめる施設
・安定した競技環境の下でアスリート強化・育成
(2019年5月竣工)

⑤ 大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場

◆ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的競技場
・公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点を形成
(2019年6月竣工)

⑥ 夢の島公園アーチェリー場

◆アーチェリーを中心として、多様な用途に活用
・芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり、都民に憩いの場を提供
(2019年2月竣工)

「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組—2020のその先へ—」より

〈都が新たに整備した競技施設〉
都は、大会の競技会場となる新たなスポーツ施設6施設について、将来にわたり有効に活用できるように整備しました。

〈東京ゆかりアスリート等の活躍〉

● オリンピック

都が発掘・育成・強化するアスリート100人が出場することを目標に取り組み、その結果60人のアスリートが出場し、うち、9人がメダルを獲得しました(左表「※」)。

また、都内中学校・高等学校に在学して競技スポーツ活動を実施したアスリートも32人が出場して活躍し、うち、11人がメダルを獲得しました。

● パラリンピック

都が発掘・育成・強化するアスリート25人が出場することを目標に取り組み、その結果、目標を大きく上回る62人が大会に出場し、うち、16人がメダルを獲得しました。

また、都の選手発掘事業をきっかけに競技活動を始めた方の中から、パラリンピックに4人の代表選手を初めて輩出しました。
(陸上競技・松本武尊、ボート・市川友美・有安諒平・木村由)

東京2020大会におけるコロナ対策の取組

東京2020大会を成功に導くため、都、国、組織委員会等で構成されるコロナ対策調整会議等において幅広く議論を行い、準備を進めてきました。

〈東京2020大会のコロナ対策の取組〉

選手や関係者にとって安全・安心な環境を整備するため、様々な対策を講じました。また、参加者が遵守すべきコロナ対策上のルールをプレイブックとして、アスリート・チーム役員、プレス等関係者ごとにまとめました。

東京2020大会のコロナ対策の取組	
選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備	
海外からの入国者数の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 大会運営の簡素化とともに来日大会関係者数を延期前の計画からオリンピック時は4分の1、パラリンピック時は3分の1に縮小
水際対策・検査	<ul style="list-style-type: none"> 入国前に2回検査 選手は原則毎日検査、他の関係者は役割に応じ定期的に検査
行動管理・健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 厳格な用務先の制限、行動管理、健康管理
基本的な感染対策	<ul style="list-style-type: none"> マスクや物理的距離の確保、三密の回避といった基本的コロナ対策の徹底などにより、選手村や競技会場における感染拡大の防止
日本在住者との接触を最小限とし、国民の安全・安心を確保	
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の原則不使用。移動は原則として大会専用車両
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> 自己手配宿泊施設の「宿泊ガイドライン」への適合 満たせない場合は、組織委員会手配ホテルへ変更

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
東京都ポータルサイト「東京2020大会のコロナ対策の取組結果」より

〈来日大会関係者の感染状況〉

水際対策の徹底や行動管理、検査の実施等の対策により、海外からのアスリート・大会関係者の陽性率等は当初想定を下回る水準で

安全・安心な大会開催		大会前の試算	実績
アスリート大会関係者の陽性状況	空港検疫検査 (7/1~9/8)	大会前の陽性率想定：0.2%	陽性率：0.10% 55人(陽性者数)/54,250人(検査数)
	スクリーニング検査 (7/1~9/8)	繁華街等のスクリーニング陽性率：0.1%	陽性率：0.03% 299人(陽性者数)/1,014,170人(検査数)
アスリート大会関係者の療養状況	都内医療機関(入院)	大会前の想定(ピーク時)：8.5人	入院者数(ピーク時)：2人 (重症者：0人) ※ 大会指定病院へ入院
	都内宿泊療養施設	大会前の想定(ピーク時)：44.6人	入所者数(ピーク時)：49人 (※ 日本大会関係者) ※ 大会用に組織委が300室を準備 余剰の部屋は都民に活用
海外からのアスリート・大会関係者の陽性率等は当初想定を下回る水準			

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
東京都ポータルサイト「東京2020大会について」より

〈大会の人流等への影響〉

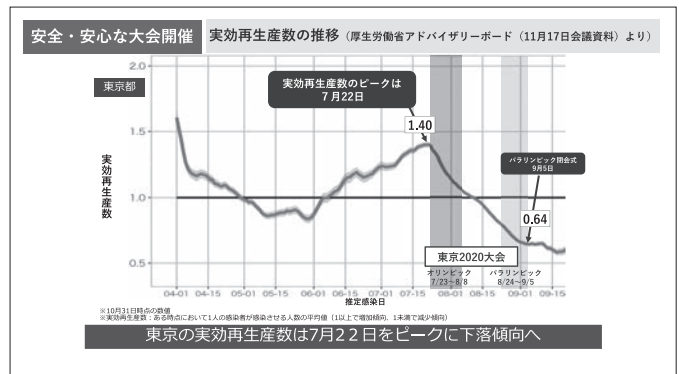
大会時には、交通需要マネジメントや、テレワーク、ステイホーム観戦の呼びかけ等により、人流や交通量の抑制が図られました。これらの取組により、1人の感染者から何人に感染が広がるかを示す「実効再生産数」でも、開会日前日の7月22日をピークに、下落に転じました。

〈まとめ〉

- ① 様々な対策により、海外からの感染の持ち込みを抑制し、選手村や競技会場における感染拡大を防止しました。
- ② 専門家からも「大会は安全に行われた」「行動管理や検査などの対策がうまく機能した」との評価をいただきました。
- ③ 人流を抑制する取組も進めました。

東京2020大会関連事業の紹介

区市町村と特に関連の深い事業を紹介し



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
東京都ポータルサイト「東京2020大会について」より

東京2020オリンピック聖火リレー 実施状況

リレー実施日	区市町村	セレモニー会場	走行ランナー数
Day1 7月9日(金)	世田谷区	聖火お披露目式：駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場	-
Day2 10日(土)	世田谷区、狛江市、稲城市、町田市	点火セレモニー：町田市/町田シバヒロ	104人
Day3 11日(日)	多摩市、日野市、昭島市、八王子市	点火セレモニー：八王子市/富士森公園	94人
Day4 12日(月)	橋原村、奥多摩町、日の出町、青梅市、瑞穂町	点火セレモニー：瑞穂町/瑞穂ビューパーク競技場	77人
Day5 13日(火)	羽村市、あきる野市、福生市、武蔵村山市、立川市	点火セレモニー：立川市/TACHIKAWA STAGE GARDEN	80人
Day6 14日(水)	国立市、国分寺市、小平市、東大和市、東村山市	点火セレモニー：東村山市/国立療養所多磨全生園	82人
Day7 15日(木)	清瀬市、東久留米市、西東京市、小金井市、府中市	点火セレモニー：府中市/東京競馬場	98人
Day8 16日(金)	三宅村、神津島村、新島村(新島)、新島村(式根島)、利島村	公道走行	19人
Day9 17日(土)	大島町	点火セレモニー：大島町/仲の原園地	8人
Day10 18日(日)	御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村(父島)、小笠原村(母島)	公道走行	19人
Day11 19日(月)	調布市、三鷹市、武蔵野市	点火セレモニー：武蔵野市/武蔵野陸上競技場	61人
Day12 20日(火)	杉並区、中野区、練馬区	点火セレモニー：練馬区/練馬総合運動場公園	75人
Day13 21日(水)	豊島区、板橋区、北区、足立区	点火セレモニー：足立区/中央卸売市場足立市場	98人
Day14 22日(木)	葛飾区、江戸川区、墨田区、荒川区	点火セレモニー：荒川区/南千住野球場	87人
Day15 23日(金)	台東区、文京区、千代田区、中央区	点火セレモニー：中央区/浜町公園	130人
Day16 24日(土)	江東区、大田区、品川区	点火セレモニー：品川区/しながわ中央公園(西側広場)	92人
Day17 25日(日)	目黒区、渋谷区、港区	点火セレモニー：港区/区立芝公園	101人
Day18 26日(月)	新宿区	点火セレモニー：都内到着式：東京都庁 都民広場	40人
合計			1,265人

〈聖火リレー〉
●オリンピック聖火リレー
 (令和3年7月9日(金)～23日(金))
 全ての区市町村を走行する聖火リレーを予定していましたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、区部・多摩地域・大島町では公道でのリレーを中止し、聖火ランナーによる点火セレモニーを実施しました。大島町を除く島しょ地域では公道でのリレーを実施しました。

東京2020パラリンピック聖火リレー 実施状況

リレー実施日	実施内容	区市町村	セレモニー会場	走行ランナー数
Day1 8月20日(金)	採火	全62区市町村	-	-
	都内集火式	新宿区	東京都庁 都民広場	-
	点火セレモニー	新宿区、中野区、豊島区、北区、文京区	北区/東京都障害者総合スポーツセンター	111人
Day2 21日(土)	全国集火式	港区	迎賓館赤坂離宮	-
	東京都聖火ピジット	足立区	都立花傳学園	-
Day3 22日(日)	点火セレモニー	千代田区、台東区、墨田区、江東区、江戸川区	江戸川区/都立葛西臨海公園第三駐車場	110人
	点火セレモニー	国立市、日野市、立川市、東大和市、国分寺市	国分寺市/市庁舎建設予定地(いずみプラザ東側用地)	113人
Day4 23日(月)	東京都聖火ピジット	練馬区	中村橋区民センター内 区立心身障害者福祉センター	-
	点火セレモニー	武蔵野市	武蔵野陸上競技場	-
Day5 24日(火)	点火セレモニー	西東京市、三鷹市、府中市、調布市、世田谷区	世田谷区/都立砧公園ねむのき広場	126人
	点火セレモニー	中央区、港区、渋谷区	渋谷区/都立代々木公園中央広場	125人
Day6 25日(水)	都内到着式	渋谷区	都立代々木公園織田フィールド	-
合計				585人

●パラリンピック聖火リレー
 (令和3年8月20日(金)～24日(火))
 全ての区市町村が工夫を凝らして採火を行いました。それらの火を都民広場にて、区長、会長、市長、市長会長、町村会会長の3名で集火し、「東京2020パラリンピック聖火(東京都の火)」となりました。

東京都内の事前キャンプ等受入状況

団体名	相手国・地域	オリ/パラ	競技	
13区	中央区	ブラジル	オリ	
	港区	イギリス	オリ	アーティスティックスイミング等
			パラ	トライアスロン
	新宿区	難民選手団	オリ	陸上競技、空手、カヌー、レスリング、柔道、テコンドー
	江東区	オーストラリア	オリ/パラ	トライアスロン
		フランス	オリ	トライアスロン、マラソンスイミング
	品川区	コロンビア	パラ	トライアスロン
			オリ	ボッチャ、パワーリフティング
	大田区	ブラジル	オリ	バレーボール、ハンドボール、ビーチバレーボール、テコンドー、ボクシング、レスリング
			オリ	陸上競技等
	世田谷区	アメリカ	オリ	陸上競技
			パラ	陸上競技
	杉並区	イタリア	オリ	カヌー(スプリント)
ウズベキスタン		オリ	ボクシング	
北区	ハンガリー	オリ	柔道、フェンシング	
板橋区	イタリア	オリ	バレーボール	
練馬区	エクアドル	パラ	陸上競技	
葛飾区	ドイツ	オリ	スポーツクライミング	
		オリ	スポーツクライミング	
江戸川区	チュニジア	パラ	陸上競技	
6市	八王子市	アメリカ	オリ	スポーツクライミング
	三鷹市	チリ	パラ	アーチェリー、卓球
	府中市	オーストリア	オリ	卓球
	町田市	インドネシア	パラ	バドミントン
	日野市	ウクライナ	オリ	空手
	多摩市	アイスランド	オリ	陸上競技、競泳
民間1	国立飛ホールディングス	パンアメリカンスポーツ機構	オリ	競泳、柔道、ビーチバレー、陸上競技
			オリ	競泳、柔道、ビーチバレー、陸上競技

都内で23の区市を走行する聖火リレーを予定していましたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、公道でのリレーを中止し、聖火ランナーによる点火セレモニーを実施しました。

●事前キャンプ・ホストタウン
 新型コロナウイルスの感染状況により、相手国の意向を踏まえ都内の一部の自治体では事前キャンプが中止となりましたが、13区6市1民間団体で事前キャンプ等を受入れました。

対策をしっかり講じたことで、選手団からは陽性者を発生させることもなく、安全・安心なキャンプ等が行われました。



ウズベキスタンのキャンプ
(杉並区・ボクシング)



アイスランドのキャンプ(多摩市・水泳)

都内ホストタウン登録状況

区部		多摩地域	
港区	シンパフエ	八王子市	アメリカ
文京区	ドイツ		台湾
	パラリンピック難民選手団	立川市	ペラルーシ
墨田区	ポリビア	武蔵野市●	ルーマニア
品川区	コロンビア	三鷹市●	チリ
目黒区	ケニア	青梅市	ドイツ
大田区	ブラジル	府中市	オーストリア
世田谷区★	アメリカ		オーストラリア
杉並区	イタリア	調布市	サウジアラビア
	ウズベキスタン	町田市●	南アフリカ
豊島区	バングラデシュ		インドネシア
	セントルシア	日野市	ウクライナ
北区	ハンガリー	東村山市	中国
荒川区	オランダ領 アルバ	国分寺市●	ベトナム
板橋区	イタリア	武蔵村山市	モンゴル
練馬区●	エクアドル	多摩市	アイスランド
	デンマーク	羽村市	キルギス
足立区●	オランダ	西東京市●	オランダ
江戸川区★	オランダ		
15区		15市	

(都内ホストタウンの登録は37件(30区市))

- : 共生社会ホストタウン(都内で9件 以下の先導的共生社会ホストタウンを含む)
パラリンピアンとの交流をきっかけに共生社会の実現に向けた取組を推進するホストタウン
- ★: 先導的共生社会ホストタウン(都内で2件)
先導的かつ先進的なユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーの取組を総合的に実施する共生社会ホストタウン

活動内容	活動場所	活動日
来場者案内、大会情報の提供(リモートによる案内も含む)	東京スポーツスクエア	7/19, 20, 23~9/5
公開収録(東京・地域の魅力発信等)	東京スポーツスクエア	7/19~8/8, 8/24~9/5(隔日)
選手等のお迎え、案内	羽田空港	7/18~23, 8/16~23
選手等のお見送り、声掛け	羽田空港	8/1~11, 9/4~6
メディア関係者の案内	東京都メディアセンター等	7/21~8/8, 8/24~9/5
来場者への声掛け(感染症・暑さへの注意喚起)等	聖火台周辺等	7/24~8/8, 8/11~9/5 ※
来場者案内、声掛け等	都庁(大会関連展示周辺)	7/30~8/19, 8/22~9/4
「みんなの東京2020応援チャンネル」 収録・配信会場サポート	日比谷野外音楽堂	7/23~25, 8/1, 7, 8
	都庁	7/31
来場者案内、会場運営サポート等	パラリンピックギャラリー銀座	7/30~8/19, 8/21~9/5
パラ競技・パラアスリートの応援メッセージの作成	国立オリンピック記念 青少年総合センター	8/19~29
パラリンピック集火式・点火式における来場者の案内、 暑さ対策グッズの配布等	都庁周辺	8/20
	代々木公園	8/24
学校連携観戦のため会場へ向かう児童・生徒の案内	競技会場周辺	8/25~29, 9/1~5
来場者の案内、暑さ対策グッズの配布等	パラ競技体験施設周辺	8/26~9/4
パラマラソン沿道付近における観戦自粛の呼びかけ	沿道周辺	9/5
大会への応援メッセージをウェブサイトから発信	(オンライン)	7/23~(大会後も発信)
東京・地域の魅力をウェブサイトから発信	(オンライン)	7/23~(大会後も発信)

※聖火台周辺における7月27日の活動は台風のため終日中止

〈都市ボランティア〉
大会で活動したシテイクキャスト(都市ボランティア)は1万1913名(延べ2万676名)。無観客開催に伴い、シテイクキャストの意見も踏まえ、観客案内に代わる様々な活動を実施し、8割の方が活動に満足と回答しました。また、大会後のアンケートでは、96%の方が今後もボランティア活動を続けたいと回答しています。

東京2020オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグツアー



(フラッグツアーファイナルイベントの様子)
オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを各地でお披露目。都内62区市町村、被災県、全道府県を巡回(2016年からの3年間)

カウントダウンイベント



(オリンピック1000日前)
大会開催までの節目ごとにカウントダウンイベントを実施

1964年東京オリンピック・パラリンピック50周年記念事業



開催気運盛り上げのキックオフとして、組織委員会、JOC、JPCと共同で、50周年記念事業を実施。庁内各局や都内区市町村等主催の63事業に冠付けを行った。

大会に向けた気運醸成の取組等

大会のレガシー

レガシーとは、オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催により開催都市や開催国が、長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的恩恵のことです。

〈大会の記憶の継承〉

東京2020大会のメダル、聖火リレーのトーチなどの記念品や記録等のアーカイブ資産を活用し、大会の成果や感動を確かなレガシーとして将来に承継します。また、東京2020大会の感動と記憶を後世に永く伝えていくため、大会開催を象徴する施設・場所等に名称を付与し、大会の開催を記念するものをレガシーとして設置します。

これらの取組により、感動と記憶を後世に引き継ぎ、競技場や地域のさらなる活性化へと深化させていきます。

〈大会後のレガシーを見据えた東京都の取組〉

東京都は、大会に向けて、バリアフリー化など誰もがやさしさを感じられるまちづくりや、メダルプロジェクトなど持続可能性に配慮した取組、スムーズビズ、ボランティア気運の醸成、多言語対応、オリンピック・パラリンピック教育など、ハード・ソフト両面に渡る多面的な施策を推進しました。また、大会に向けた新型コロナウイルス対策は、都民の安全・安心な暮らしの実現に寄与しました。

こうした大会のレガシーを、都市のレガシーとして発展させ、都民の豊かな生活につなげていきます。

おわりに

東京2020大会は、当初想定していたものとは全く異なる大会になりました。

コロナ禍前は、東京都全体でどのように開催気運を盛り上げていくのか、日本国内外から東京都を訪れる観客や観光客をどのように迎え入れるのか、暑さ対策や会場への誘導対策をどうするか、大会時の円滑な交通輸送をどう実現するか等の検討が進められてきました。

一方、感染拡大後は、安全・安心な大会を実現するために、感染症対策をどのように講じていくのか、観客の受入れをどうするのか、人の密集する場面をどのようにして回避するか等が議論の中心になりました。大会の1年延期という前例のない事態の中、「プラス1」を生かし、皆で議論を積み重ね、その過程で、聖火リレーの公道走行断念、ライブサイト等の中止などの判断もありました。

様々な検討を経て開催した東京2020大会は、世界が格闘を続けるコロナ禍において、東京・日本の実行力・総合力を世界に示し、世界からはポジティブなメッセージが寄せられました。

また、「スポーツの力」の価値を改めて私たちに見せてくれました。これをレガシーとして、都は障害の有無に

関わらず、誰もがスポーツを楽しめる「スポーツワールド・東京」の実現に向け、そして、パラスポーツを通じた共生社会の実現と都民の豊かな生活に繋がっていくよう取り組んでいきます。



インフォグラフィック
「大会後のレガシーを見据えた
東京都の取組—2020のその先へ—」より



「TOKYOスポーツレガシービジョン」より

「多摩地域における行政のデジタル化」と 「多摩26市間の職員交流」について

東京都市長会事務局

■はじめに

東京都市長会（以下「市長会」という。）では、多摩地域が直面している諸問題について、各市相互の情報交換を行い、市政運営上の課題を研究討論するとともに政策提言などの取組を行っています。

本稿では、市長会が令和3年度以降の政策テーマとして推進している「多摩地域における行政のデジタル化」と、各市が連携し事務事業を共同執行するための風土醸成を目的とした「多摩26市間の職員交流」の2つの取組についてご紹介します。

■多摩地域における行政のデジタル化について

1 背景（令和2年度の取組）

令和2年の新型コロナウイルス感染症拡大を契機に官・民・国・地方を問わずデジタル化の遅れが顕在化し、対応が急務となりました。市長会では、行政のデジタル化への対応

は多摩地域が直面する共通の課題として捉え、課題解決に向けて、東京都（以下「都」という。）へ要望活動を行うとともに、町村部を含めた多摩地域の自治体職員が参画するプロジェクトチーム（以下「PT」という。）を結成し、広域的に連携して取り組んでいくことを決定しました。

2 取組の概要（令和3年度の取組）（図1）

令和2年度の流れを受け、令和3年4月に30自治体の職員によるPTが発足しました。また、東京都デジタルサービス局からもオブザーバーとして参加をいただき、都のデジタル化施策と整合性を図りながら取組を進めることとなりました。

PTでは、広域連携効果が見込め、住民サービス向上と職員業務効率化を実現できることを念頭に置き、各自治体に実施した意識調査の中でも関心が高かった『行政手続のオンライン化』を具体的な取組テーマとして定め、推進していくこととなりました。

その後、共通テーマを設定し、具体的な取組として、デジタル化の基礎的な理解を深め

る観点から全体の底上げを図る「広域検討」と、他自治体の参考となる成功事例の創設を目的とした「集中検討」と定め、それぞれを実践するチームを設け、取組を進めました。



図1 取組の概要

取組テーマ	行政手続のオンライン化推進	
共通テーマ	原課職員を巻き込み、全庁的に行政手続のオンライン化を推進させる	
	目的	取組内容
広域検討 (30市町村)	・多摩地域全体のオンライン手続の活用率の底上げ	①UI※の優れたオンライン申請に係る主な民間ツールの説明・操作体験会の実施 ②民間ツールを一定期間各自治体で試用 ※) UI…ユーザーインターフェースの略称。利用者の使いやすさ。
集中検討 (多摩市)	・特定の業務プロセスを深掘し、業務フローの改善を図り、他自治体の参考となる成功事例を創出 集中検討を行う手続は以下の点を考慮 ・オンライン申請のニーズが高い ・一定の申請件数が見込める ・成功事例の横展開を見込める分野	①学童クラブ入所手続のオンライン化についてBPR含めた実証実験
		成果
		<ul style="list-style-type: none"> 民間ツールの機能性・操作性や活用方法等のノウハウを自治体間で共有 デジタル化推進に係る課題や障壁について意見交換等を通じ、整理 <p>LOGOフォーム Grafter スマート申請</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務フローの改善とオンライン化に成功 【住民メリット】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 1申請に係る所要時間を3.9分削減 ✓ 24時間オンライン申請可 ✓ 窓口混雑緩和に伴う待ち時間の減少 <p>オンライン申請の満足度93%※</p> <p>※オンライン申請を行った住民に対し実施したアンケートにて満足度を調査、5段階評価で「非常に良い」、「良い」を足した割合</p> <ul style="list-style-type: none"> 【職員メリット】 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 1申請に係る業務時間を9分削減 ✓ 窓口混雑緩和に伴う相談者対応時間の十分な確保

図2 取組内容と成果

広域検討では、主要なオンライン申請に関する民間ツールの比較検討を実施し、行政手続のオンライン化に向けた機運醸成やノウハウの共有につながりました。
また、行政のデジタル化推進に向けた障壁

や課題を整理した上で、議論を行い、次年度の取組に向けた方向性をまとめました。
一方、集中検討における実証実験では、多摩市担当課の職員による積極的な協力により、学童クラブ入所手続について、既存の業務プロセスを可視化し、現状分析や改善案を検討した上で、第1期(令和3年10月28日から11月7日)の申請受付より、従来の窓口申請や郵送申請等の他に東京都内初の事例となるオンライン申請を加えました。
取組の結果としては、第1期申請総数のうち、オンライン申請が半分に満たなかった点や一部申請項目の入力が手間・難解等、UIの観点で更なる改善の余地はあるものの、この取組が住民目線における利便性向上や職員の業務効率化という点で、自治体デジタルトランスフォーメーション(以下「DX」という。)の前進に微力ながら寄与したものと認識しています。
4 次年度の方向性について(図3)
令和3年度に広域検討でまとめた次年度の方向性を踏まえ、自治体職員を対象としたDXに関する研修及び組織的な業務改革(BPR)等の推進に向けたワークショップを実施するとともに、特定手続のBPRに係る取組を実施します。
また、集中検討で得られた貴重な知見を他自治体に展開すべく、学童クラブ入所手続の横展開とともにデジタルツールの導入効果検証を含めたBPRも併せて実施します。

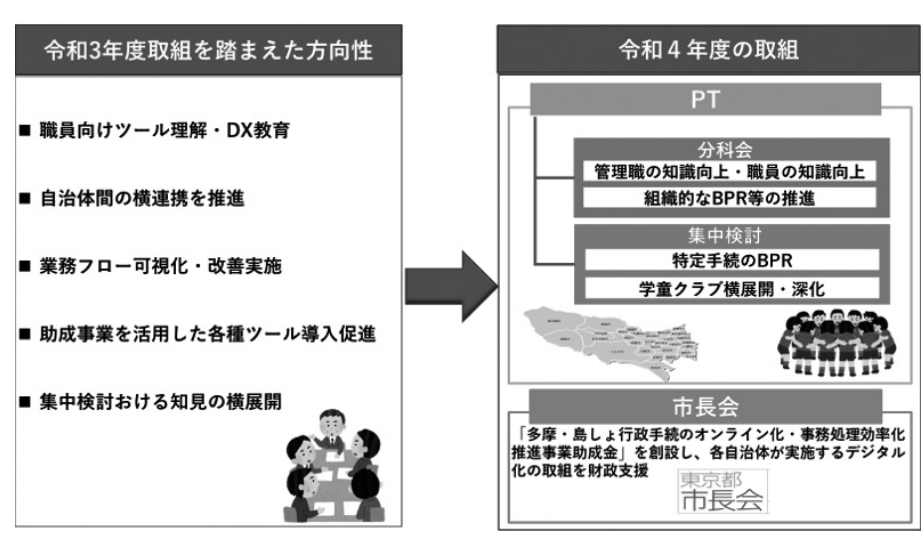


図3 次年度の方向性について

更に市長会では東京都区市町村振興協会の助成金を活用した「多摩・島しょ行政手続のオンライン化・事務処理効率化推進事業助成金」を創設し、各自治体が実施するデジタル化の取組を財政支援していく予定です。
こうした一連の取組により、行政のデジタル化を更に加速させることで、多摩地域の住民にとって利便性の向上と各市町村職員の業務効率化を図ってまいります。

■多摩26市間の職員交流について

1 背景

近年、全国的に人口減少や少子高齢化が進行しています。多摩地域も例外ではなく、2020年3月の「東京都の人口予測」では、多摩地域の人口は、2040年には400万人を割り込むと見込まれています。

今後、限られた職員や財源で多様な住民ニーズに対応していくためには、各市が連携し、それぞれが有する資源を融通し合い、有効に活用していく視点が重要となってきます。

そうした中で、職員派遣を通じて組織・風土等の相互理解を深化させるとともに、先進事例や課題を共有し、広域的な連携と事務事業を共同執行する気運を醸成することを目的として、令和3年4月から多摩26市間の職員交流がスタートしました。

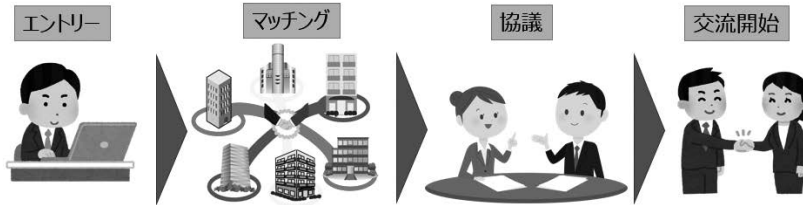


図1 多摩26市間の職員交流 交流開始までの流れ

多摩26市間の職員交流方針の概要	
目的	・職員交流を通じ、組織・風土等の相互理解を深化させ、先進事例や課題を共有することで広域的に連携して事務事業を共同執行する気運を醸成する
形態	・研修派遣
職層	・原則主任・主事とするが、管理職や係長職でも可 (交流市相互の協議により柔軟に決定)
期間	・交流市相互の協議により決定
エントリー	・任意
交流手法	・協議が成立した市が相互交流を開始 (手法) 行政分野ごとに交流希望市を提示し、希望が合致した2市が協議
管理・運営	・人事担当者会議：交流方針の変更や成果の検証等、事業全体にかかる部分について協議する ・幹事市会：エントリー希望票の受付やマッチング作業等、具体的な実務を執行する

図2 多摩26市間の職員交流方針の概要

交流市	分野	期間	職層
立川市 ↔ 青梅市	情報	1年	主任
小平市 ↔ 国分寺市	環境 介護保険	2年	主任・主事
八王子市 ↔ 町田市	収納	3ヶ月	主任・主事
東村山市 ↔ 福生市	公共施設	1年	係長・主任
調布市 ↔ 多摩市	児童館	3ヶ月	主任・主事

図3 令和3年度多摩26市間の職員交流 交流市一覧



図4 派遣者連絡会の様子

2 事業の概要(図1)(図2)

各市が提示する交流希望を踏まえてマッチングを行い、協議が整った市で相互交流を開始します。派遣の形態・交流職員の職層等については図2に記載の通りです。

3 令和3年度の交流実績(図3)

令和3年度は図3に記載の10市5ペアが各分野で交流しています。

4 派遣者連絡会の開催(図4)

市長会では、職員交流を個人の成果に留めることなく、「交流職員同士のコミュニケーションを図る場とすること」「組織間の繋がりを作るきっかけとすること」を目的として、各交流職員、交流職員の所属先の上司、交流市の人事担当課の職員を対象に、派遣者連絡会を開催しました。派遣者連絡会では、交流分野等についての課題の抽出と解決策の検討をワークショップ形式で行いました。参加者からは、「交流市同士で話し合える機会があることで、より関係性が深まった」などの意見をいただくことができました。

5 取組の成果(図5)

市長会は、交流の効果や課題を把握するために、交流を実施している市を対象にヒアリングを実施したところ、全交流市が「本交流が、組織・個人に良い影響を与えている」と回答しました。

そして、交流の具体的な効果として、大きく分けて3点あることが分かりました。

1つ目は、施策の見直しに関することです。各市が同じ分野で交流することで、業務の手法・進め方、重要視する箇所、時間・予算をかける箇所等を比較することができます。そうすることで、互いが業務改善、施策の見直しに役立てていました。

これは、同じ基礎自治体同士で交流したからこそ得られた効果であると考えます。

2つ目は、組織間の繋がりの構築です。交流職員をきっかけとして、所属部署同士で会議を開いて業務の手法について意見交換を実施するなど、個人の枠を超えて、組織同士で繋がりができていました。

3つ目は、派遣受入先の職員の意識改革に関することです。多くの交流職員は、交流分野の経験者であり、高いスキルや前向きな姿勢(上司に対して積極的に提案する姿勢等)で業務に取り組んでいました。その結果、職員のモチベーションが向上するなど、良い影響を与えていました。

東村山市と福生市の交流事例

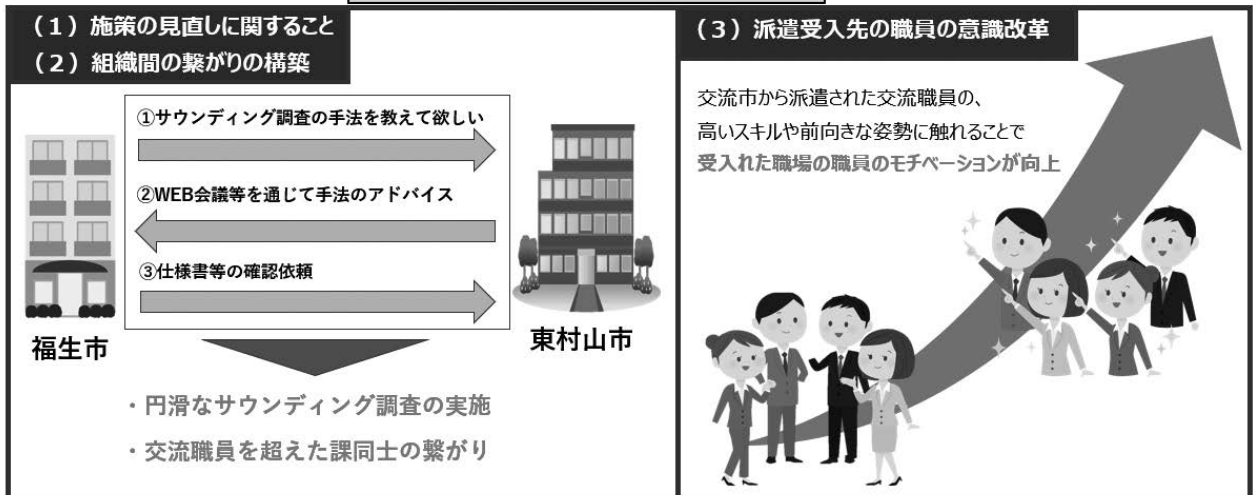


図5 東村山市と福生市の交流事例

6 今後の展望

現在、令和4年度の職員交流実施に向けて協議が始まっており、令和3年度からの継続市を含めて、14市がエントリーをしておりま。本取組が多摩地域の広域連携の礎となるためには、成果や課題を全体で共有するとともに、改善を繰り返しながら、各市が活発に交流することが重要であると思います。そのため、市長会は、引き続き各市をサポートしていく予定です。

■ おわりに

多摩地域では今後、直面する人口減少や税収減による財源難等に伴う課題に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による新たな課題を解決していかなくてはなりません。

これらに対応するため、多摩26市では職員が一丸となって日々努力を続けています。

市長会としては、多摩地域が住民にとって誇りと愛着のある豊かな地域として、未来に向けて持続的に発展していくことを願って止みません。

『創立100年を迎えた東京都町村会』

東京都町村会事務局

東京都町村会は、東京都内の全町村で構成する団体で、地方公共団体事務の円滑な運営と、地方自治の振興発展を図ることを目的に、町村事務の連絡調整や、地方自治に関する調査研究、町村有物件等の災害共済、町村職員の福利厚生に関する事務などを執り行っています。



町村会事務局が入る東京自治会館

大正時代に創立

今年度は、大正10年6月25日、「東京府町村長会」が創立総会を開催してから、100年目に当たる節目の年度です。

創立当初は、東京都でなく、府だったこと、また現在1郡13の町村が8郡148町村だったことなど、100年という長さを思わずにはいられません。当時の町村は、現在の市部

のほとんどと、区部の東京市とされた以外の地域も含み、今よりずっと広範囲でした。

現在9町村ある島しょ地区の全てに町村制が施行されるのは、創立から2年が経った大正12年になってからです。



最初の町村会事務所

町村会創立の背景

町村会が創立された当時の日本は、大正3年に起きた第一次世界大戦の影響による輸出激増、造船業の好況や各産業の勃興などから、空前の大戦景気を呼び、資本家を潤した一方で、工業労働者の増加と都市部への人口集中による農業生産の停滞から物価高騰が進み、多くの国民は疲弊し、米騒動が全国的に広が

りました。また、大戦後のヨーロッパ諸国の復興が進むや、貿易は輸入超過に転じ、大正9年には株式市場の暴落から戦後恐慌が発生し、その後の金融恐慌につながっていきます。

地方自治は、明治時代に公布された市制・町村制、府県制・郡制が制度的にはありましたが、政府の強い統制の下、町村の財政はきわめて脆弱だったこともあり、経済的に不安定な中、小学校教員の俸給負担を機に、国への一致結束した働きかけや町村長の全国組織の必要性を求める運動の広がりから、大正10年2月に全国町村長会が創立されました。本会が創立したのは、その4か月後の同年6月です。政治的には、政党内閣の成立、普通選挙を要求する運動や労働運動の展開、国際的には、国際連盟の発足、軍縮と極東問題審議のためのワシントン会議などがあった時期です。

初代会長には品川町長が就任しました。品川町長は、先に創立した全国町村長会の初代会長であった



初代会長 品川町長
漆 昌蔵

ことから、会長に就任したという経緯があります。

郡・町村名	氏名	在任期間	
		就任年月日	退任年月日
荏原郡品川町長	漆昌巖	T 10. 6. 25	S 5. 1. 30
北豊島郡練馬村長	大木金兵衛	S 5. 10. 1	S 7. 10. 1
南多摩郡日野村長	有山亮	S 7. 10. 29	S 10. 11. 14
西多摩郡青梅町長	根岸太助	S 10. 11. 14	S 11. 1. 22
西多摩郡調布村長	岩浪光二郎	S 11. 9. 26	S 12. 12. 3
北多摩郡武蔵野町長	秋本録之助	S 12. 12. 3	S 14. 3. 31
北多摩郡府中町長	桑田祐栄	S 14. 5. 1	S 15. 10. 1
西多摩郡調布村長	岩浪光二郎	S 15. 10. 26	S 20. 2. 20
西多摩郡青梅町長	宇津木林蔵	S 21. 5. 30	S 21. 11. 7
北多摩郡三鷹町長	大野金次郎	S 22. 2. 24	S 22. 3. 29
南多摩郡南村長	細野惣太郎	S 22. 6. 5	S 23. 7. 10
西多摩郡氷川村長	木村源兵衛	S 23. 7. 10	S 24. 11. 25
北多摩郡狛江村長	石井三四郎	S 24. 11. 25	S 26. 6. 18
南多摩郡恩方村長	尾崎知三	S 26. 6. 18	S 28. 5. 25
西多摩郡氷川村長	木村源兵衛	S 28. 5. 25	S 30. 6. 13
北多摩郡久留米村長	番場憲隆	S 30. 6. 13	S 32. 7. 23
南多摩郡町田町長	青山藤吉郎	S 32. 7. 23	S 33. 1. 31
南多摩郡稲城町長	森一郎	S 33. 4. 5	S 34. 6. 24
西多摩郡奥多摩町長	原島謙益	S 34. 6. 24	S 36. 6. 22
北多摩郡小平町長	小川睦郎	S 36. 6. 22	S 37. 9. 30
北多摩郡村山町長	諸江吉夫	S 37. 12. 4	S 38. 4. 30
北多摩郡国立町長	田島守保	S 38. 6. 22	S 41. 12. 5
北多摩郡狛江町長	石井三四郎	S 41. 12. 5	S 43. 5. 28
南多摩郡稲城町長	高橋昌太郎	S 43. 6. 6	S 44. 6. 22
南多摩郡多摩町長	富沢政鑑	S 44. 6. 23	S 46. 6. 22
西多摩郡瑞穂町長	石塚幸右衛門	S 46. 6. 23	S 48. 5. 15
西多摩郡五日市町長	岸義一	S 48. 6. 8	S 50. 4. 30
西多摩郡羽村町長	並木周一	S 50. 5. 15	S 56. 3. 31
西多摩郡瑞穂町長	吉岡親一	S 56. 5. 11	S 60. 5. 15
西多摩郡五日市町長	栗原昇作	S 60. 5. 16	S 62. 4. 29
西多摩郡奥多摩町長	佐久間藤一	S 62. 5. 12	H 1. 5. 30
西多摩郡羽村町長	井上篤太郎	H 1. 5. 31	H 3. 10. 19
西多摩郡五日市町長	田中雅夫	H 3. 10. 20	H 7. 8. 31
西多摩郡瑞穂町長	関谷久	H 7. 9. 1	H 11. 7. 30
西多摩郡日の出町長	青木國太郎	H 11. 7. 31	H 21. 5. 31
西多摩郡檜原村長	坂本義次	H 21. 6. 1	H 24. 3. 31
西多摩郡奥多摩町長	河村文夫	H 24. 4. 1	R 2. 5. 23
西多摩郡瑞穂町長	杉浦裕之	R 2. 5. 28	

変わらぬ町村の役割

その後、第二次世界大戦を経て、日本国憲法の公布、地方自治法の制定をはじめ、町村をめぐむる状況は、日本社会とともに変化します。高度成長期には、農業の機械化、近代化が進む一方で工業地帯への大量の人口流出により、農業人口は激減し、食料自給率の低下や過疎化の進行など、町村行政は大きな影響を受けました。

現在、過疎対策、地方分権の推進、毎年のように繰り返される自然災害への対応などが求められる時代の中、100年前に12,000を超えていた町村数は、令和に入った現在、

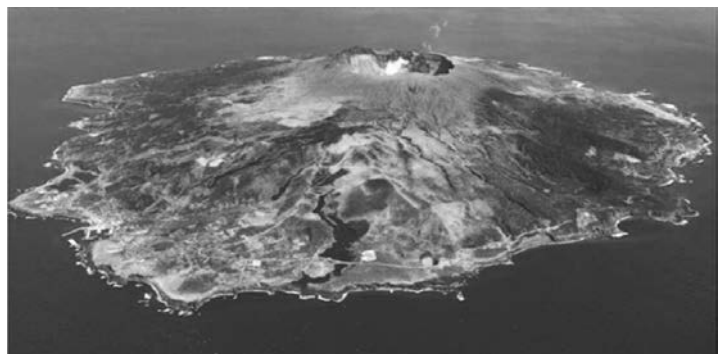
1,000を切っています。しかし、町村数の違いはあれ、過去も未来も、各町村は、森林や清流などの自然環境の保持、地域の特性を生かした食料供給や水資源の涵養、国土の保全、自然を生かした観光など、住民の生活に不可欠な役割を担い続けています。



瑞穂町特産物（シクラメン）



青ヶ島村（青ヶ島全景）



三宅村（三宅島全景）



大島町（三原山）



神津島村（赤崎遊歩道）



利島村（利島全景）

東京都町村会創立100周年記念事業の実施

今年度実施する、創立100周年記念事業をご紹介します。令和2・3年度の2か年で、小学校五年生と中学校二年生を対象に、夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さを伝えていく取組みとして、「夢の教室」(子どもの心の教育事業)を日本サッカー協会(町村会と同様、今年度で創立百周年)と連携して実施しました。サッカー選手などのアスリートの方を「夢先生」として、中学校に招いて、授業をってもらう事業です。

また、令和4年2月17日に記念式典と、それにあわせて記念講演会を実施します。今後の急激な人口減少社会を迎える中、町村行政を円滑に運営するためには、いかなる事態にも対応できる組織づくりをしていくことがより重要になります。このため、記念講演では、強い組織づくりⅡ人材育成について、大学箱根駅伝の活躍で知られる青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督の原晋氏をお招きし、ご講演いただきます。

さらに、東京都町村会の変遷や各町村の魅力を伝えるための100周年史を3月に刊行し、関係機関に配付いたします。

(令和4年1月執筆)



東京都町村会史

東京都町村会等歴代 事務局長 名簿

1 事務局長兼務団体

団体名	設立年月日	解散年月日	備考
東京都町村会	T 10. 6. 25		
東京都町村会議長会	S 24. 7. 24		
東京都市町村電気ガス連絡協議会	S 29. 4.	S 43. 3.	東電多摩支店直納に切替
東京都市町村職員退職手当組合	S 40. 4. 1		S 50. 12. 5 専任事務局長着任
東京都市町村職員研修協議会	S 40. 10. 1	S 56. 4. 30	同日業務引渡
東京都市町村公平委員会	S 42. 4. 1		S 56. 5. 1 東京自治会館組合
東京都市町村議会議員 公務災害補償等組合	S 43. 2. 29		と一体化
東京都市町村交通災害共済組合	S 43. 10. 1	S 63. 3. 31	S 63. 4. 1市町村総合組合として新発足
東京都市町村林野振興対策協議会	S 55. 12. 26		

2 歴代事務局長

氏名	在任期間	在職年月数	兼務状況
野村 玄二 ノムラ ゲンジ	自 S 24. 8. 25 至 S 40. 3. 31	15年7ヶ月	町村会 議長会 電ガス協 (関東町村会・議長会 常任事務局)
神原 秀男 カン バウ ヒデオ	自 S 40. 4. 1 至 S 49. 8. 31	9年5ヶ月	町村会 議長会 電ガス協 退手 研修協 公平委 交災共
岩浪 道輔 イワ ナミ ミチ スケ	自 S 49. 9. 1 至 S 59. 12. 31	10年4ヶ月	町村会 議長会 退手 研修協 公平委 議公災 交災共 林対協
菊池 守忠 キク チ モリ タダ	自 S 60. 1. 1 至 H 2. 12. 31	6年(2期)	町村会 議長会 退手 公平委 議公災 交災共 林対協
高附 則夫 タカ ツキ ノリ オウ	自 H 3. 1. 1 至 H 8. 8. 31	5年8ヶ月 (1期+2年8ヶ月)	町村会 議長会 退手 公平委 議公災 林対協
要害 武雄 ヨウ ガイ タケ オウ	自 H 8. 9. 1 至 H 14. 8. 31	6年(2期)	町村会 議長会 退手 公平委 議公災 林対協
宇口 昌義 ウ グチ マサ ヨシ	自 H 14. 9. 1 至 H 20. 8. 31	6年(2期)	町村会 議長会 退手 公平委 議公災 林対協
松本 栄一 マツ モト エイイチ	自 H 20. 9. 1 至 H 22. 7. 31	1年10ヶ月	町村会 議長会 退手 公平委 議公災 林対協
名倉 衡 ナ グラ ヒトシ	自 H 22. 8. 1 至 R 3. 3. 31	10年7ヶ月 (3期+1年7ヶ月)	町村会 議長会 退手 公平委 議公災 林対協
山卷 毅 ヤマ キ タケン	自 R 3. 4. 1 至		町村会 議長会 退手 公平委 議公災 林対協

注1 関東町村会・同議長会は、昭和40年度から事務局を会長都県の担当とした。
(研修協議会の運営のため、事務所を全国町村会館から立川市に移したことによる。)
2 昭和40年4月1日から都職員OBが就任。
3 昭和60年1月1日から在任期間に任期制(1期3年)を導入。



八丈島(八丈富士とフリージア)



檜原村(払沢の滝)

次の100年へ

創立から100年経った今、コロナ禍により、各町村は感染拡大の防止や、各種事業の縮小などの対応を迫られ、域内の産業不振など、経済的にも大きな影響を受けています。

町村の主産業の一つである観光業は人流抑制により低迷を余儀なくされ、飲食店等の営業短縮・自粛は物産の供給源である農業、漁業にも影響しています。コロナが収束したとしても、労働力や設備を元どりにするためには、「大きな呼び水」が必要になるでしょう。

町村会でも、新型コロナウイルスの影響は、感染拡大直後からあり、通常通り会議等が実施できず、会議を書面での開催とするなどの対応を強いられました。そうした中でも何とか通常業務に近づけようと、リモートで会議ができる環境を整え、資料をペーパーレスにする取組みを進めてきました。また、町村会事務局職員が在宅で勤務ができる環境も整えました。コロナという禍を契機に、平時では導入できなかったような先進的な技術を活用し対応しています。

今後も町村にとって困難な局面があると思いますが、東京都町村会は、各町村とともにその課題を共有し、ともに乗り越えて、次の百年の歩みを進めてまいります。



小笠原村（三日月山からの景色）



瑞穂町（瑞穂町全景）



御蔵島村（ヘリポートからの夕陽）



日の出町（平井川のさくら）



奥多摩町（奥多摩町全景）



新島村（富士見峠展望台からの景色）

「わたしと東京」

伊東 四朗さん
(喜劇役者)

昭和37年に「てんぷくトリオ」を結成し、一躍お茶の間の人気者になった伊東四朗さん。70年代は小松政夫さんとの「電線音頭」で子どもたちの心をギョッとつかみました。連続テレビ小説「おしん」で厳格な父親を演じたのは45歳のとき。デビューから60年余り、芸能界の第一線で活躍してきた伊東さんは、東京喜劇の聖地・浅草の伝統を今に受け継ぐ喜劇役者です。「たいとう観光大使」を務め、「東京は今も憧れの街」という伊東さんに、幼少期から暮らしてきた「東京」への思いなどについてお話をうかがいました。



きょうだいと下町に育てられた

——平成25年から「たいとう観光大使」を務めていらっしゃいます。

「生まれ育った台東区の応援を」と言われたら引き受けられないわけにはいきません。思い入れがいくらでもありますから。昔は下谷区といいましたけど、終戦の年、8歳の4月に母親の実家がある静岡の掛川に疎開するまで住んでいました。

——伊東さんはどんな少年でしたか。

近所に住んでいた同年の子と、しょっちゅうトリオで遊んでいました。ハワイマレー沖海戦があった年ですから昭和17年。私は5歳ですがね。ビー玉でパールハーバーを作って遊んだ覚えがあります。日本中が戦争で血湧き肉躍っていた頃です。

11歳上の兄を頭に、次兄、姉、私、3つ下の妹五人きょうだいの三男です。上野動物園には二人



の兄貴としょっちゅう行って、夕夕で入れていたできました。私はチビだから柵の下を通れるんですよ。小一の最初の遠足が上野動物園で、初めて正面玄関から入ったなって話をしたくらい。そんなふう遊び場を開拓するのが遊びの一環でした。

きょうだいと近所の人たちに育ててもらったようなものです。向こうへ出るのに人の家を通るほうが近いとなれば、下駄を持つて家の中を通って行っちゃうような土地柄で、悪いことをするとどの子も差別なく叱ってくれました。町全体で子どもを育てているような雰囲気でしたね。そういう近所づきあい、今でも懂れます。

——再訪したことはありませんか？

4年くらい前ですかね、突然行ってみたくなって下谷を歩きました。銀座線に乗って上野広小路で降り、御徒町公園を抜けて、生家のあった方向に歩くと、甘いもの屋さんも薬局も床屋さんも無

くなっていました。生家があった路地は見事に残っていて、住んでいた家に伊藤という人が居て笑ってしまいました。ぼんやり歩いていると通りがかつたおばあさんが、「そこのお兄さん、カーディガン落ちたわよ。あら伊東さんじゃない」。あの辺の人は「あら!!」と大仰にしないんです、私らみたいな芸能人に会っても。飾らない下町言葉を聞いているとうれしくなりました。

下谷公園でおむすびを食べてまたブラブラ。昔通っていた前竹町国民学校は平成小学校になって建て替わっていました。上野公園の西郷さんの横のベンチに座って、大道芸人さんたちを見ながら小一時間。一日いても飽きませんけど、日が暮れてきたんで地下鉄に乗って帰ってきました。下町言葉を聞きたくて、ちよくちよくまた行ってみたいと思ってしまうんです。

——今でも下町を感じられる数少ない場所ですね。

あの雰囲気はどこにもないですね。まさしく真の下町なんだと思います。「湯にいつつくらあ(お風呂屋さんに行ってくる)」、「そんなところに

かくねてんじゃないぞ(隠れてるんじゃないぞ)…。疎開が長かったので、よけいに東京というものの値打ちがわかるんですね。望郷の念がずつつとありましたから。

——掛川から東京に戻られたのは？

掛川には15歳の秋まで、7年間いました。東京弁を使うだけでいじめられましてね。帰りたくて帰りたくて。先に東京に帰っていた兄と姉に呼んでもらって住んだのが国立です。終戦から7年経っても下町周辺は戦争の傷跡だらけ。まだ焼野原に近かったです。当時の国立は疎開先よりずっと田舎で、襟裳岬じゃないですけど「何も無い春」でしたよ。とても寒くて、銭湯の帰りに手拭いをぐるぐる回していると凍って力チ力チになりました。それでチャンバラができたほど。中3の10月に編入して、3月まで国立にいました。

「楽屋に寄ってけ」の一声で役者の道へ

——高校は都立市ヶ谷高校へ。

兄姉が東京に戻って来て、文京区丸山町に住みました。高校は牛込北町にあり、都電で通学しました。籠町に出て水道橋で乗り換えて。60年代から都電が次々と無くなっちゃいました。なんとも寂しかったですなあ。

——演劇を始めたのは？

中学のときは英語部の劇で『浦島太郎』を。高校のときはクラスで、佐々木邦の作品を文化祭のときにや



小学生の頃

りました。佐々木邦は日本のユーモア小説の先駆け。本屋さんで立ち読みして肩が動くほど笑って、「立ち読みはダメ」なんて言われたくらい。クラス全員がキャストとスタッフでかわれるように脚色しました。

——映画や芝居は好きだった？

疎開先の映画館の館主が長兄と友達で、顔パスだったんですよ。チャップリンやローレル&ハーディ、アボット&コステロ…を観たことは私の財産です。ずっと喜劇が頭の中に残りました。将来役者をやろうと思って観ていたわけじゃなくて、観ておいたことが役に立っているということですね。

兄貴は芸能界に憧れていて役者をやりたかったらしい。復員してきて、その館主と劇団を作り、私も子役で駆り出されました。でも、私は芸能人になろうと思ったことは一度もありませんでした。芸能界というのは今より遠いところにありましたからね。ただ、観るのは好きで、特にエノケン・ロッパ・シミケン(榎本健一、古川ロッパ、清水金一)さんなど喜劇が好きで、たくさん観てきました。

——役者の道に入られたのは？

高校の卒業を控えて就職活動をしたが、筆記試験はまあまあだったと思うんだけど、最終面接で必ず落ちるんです。こっそり内申書を開けてみたら、「とつつきの悪そうな男だが、深



高校時代

く付き合ってみればそうでもない」と書いていました。ただでさえこつこついう顔なんだから、「とつつきの悪そうな男」なんて書かれたら面接官もびびってしまいますよね。就職試験に全敗した私に、早稲田生だった次兄が紹介してくれたのが生活協同組合食品部。

そこでしばらく牛乳のフタを開けるアルバイトをしていました。時給30円でした。

アルバイトの合間によく、早稲田の友達と芝居を観ていました。十円玉を放って表が出たら浅草・新宿で石井均さんや渥美清さんが出ていた劇場へ。裏が出たら歌舞伎座、新橋演舞場、明治座で歌舞伎。でも歌舞伎は高いもんですからそうそう行けません。どうやって入ったかは公言できないので詳しくはやめておきます(笑)。

フランス座で石井均さんの舞台を観ているうちに、いつも決まった席に座っている奴がいると有名になってしまつて、終演後舞台の上から「おい、楽屋へ寄ってけ」と石井均さんに言われて楽屋に入り浸るようになりました。そして今度独立して



昭和33年デビュー (21歳)

持つという劇団、「笑う仲間」に誘ってくれたんです。あの「寄ってけ」という言葉がなかったら、今の私はいなかったと思います。

——劇団での初舞台は？

錦糸町の駅前ヘルスセンター、江東楽天地でした。そのとき通行人役をやったのが出発点です。21歳のときです。浅草の松竹演芸場の公演から正式に座員になりました。

——演じることはいかがでしたか？

観るのとやるのは大違いだとはつきりわかって挫折しましたね。簡単に考えていたんですけど、やってみるとサッパリウケない。先輩の役者さんに「浅草神社に行ってお祈りして来い」なんて言われてね。上演の合間に行って、ただただ祈りながら、境内でやっている大道芸を観ていましたが、そこから学んだこともありましたね。あのしゃべりは今もスゴイ技術だと思っています。

——「てんぷくトリオ」の戸塚睦夫さんとは、その頃出会ったのですか？

その後石井さんが新宿の松竹文化演芸場で改名した「石井均一座」に参加。でも給料が安くて、夜はキャバレー回りをしているうちに、フランス座に出ている三波伸介に戸塚睦夫が声をかけ、三人でやるようになりました。トリオでデビューしたのが昭和37年、25歳のときです。その頃は都電14番の成子坂下、新宿に住んでいましたから、新宿は自分の住処であり職場でもありました。



昭和33年頃（新宿の劇場にて）

——下谷区、掛川市、国立、文京区から新宿へとお引越し。

新宿のあとが中野です。友人が建てた中野のアパートに住むようになって、昭和41年に結婚したときはそこにいました。このあいだ女房と、そのアパートがあった辺りを歩いてみたんですけど、見事に全部無くなっていました。まもなく駒込の6畳一間のアパートに引っ越して、昭和42年に長男が生まれました。

——その時期から、てんぷくトリオをテレビで見ることが多くなりましたか？

テレビに出始めてもまだ名前は売れていなかった昭和43年の元旦の新聞のコラムに、映画監督の市川崑さんが書いてくれたんです。「今年のホープ」というタイトルで、川口昭さん、梶光夫さん、佐良直美さんと私を挙げて、「てんぷくトリオの一番若い人。名前は知らないが、セリフと動きのタイミングがともよい」と。世界に誇る名監督が我々のお笑いを観ているということにびっくりし、励まされました。やる気がむくむく出てきましたね。それ以来、いつ誰が見てくれているかわからないという気持ちで、手は抜かずに舞台に立っています。



「東京」ってなんていいネーミングなんだろう

——その後は調布に長くお住まいだったのですか？

坂本九ちゃんの番組で振り付けをしていた浦辺日佐夫さんに、「いいところだよ」と紹介されたのが調布。つづじヶ丘で一軒家を借りました。調布市内で2回引っ越しましたが、昭和43年から平成12年まで32年住みました。都心まで距離はありますけど、それを感じさせない住み心地のよいところでしたな。

55歳でテニスを始めたのも調布です。休日にごでダラダラしている私を見た女房に声をかけられテニスクラブの金網の外から見ていると、「伊東さん、入ってらっしゃいよ」と女房のテニス仲間が。ボールとラケットを渡されていきなりやらされちゃった。「ゴロだのフライばかりなのに、我慢してつきあってくれるのがうれしくてのめり込んでしまいました。一時は朝10時から夕方6時までぶっ通しで熱中していました。1センチずつ進歩するのがうれしくて、75歳まで20年間続けました。

——ずっと東京で育ち、家庭を持ち、仕事をしてきた伊東さんにとって、東京はどんな街ですか？

この年になっても変わらず「憧れの都」です。「東京」ってなんていいネーミングなんだろう、なんていいところなんだろうと思います。「若い僕等は幸福者 日比谷は恋のpromenade 上野は花のアベック…希望の街 憧れの都 二人の夢

の東京：」。あの歌、灰田勝彦さんの「東京の屋根の下」の歌詞のまんま。今でもなんの違和感もありません。

三代続けば江戸っ子といいますが、全国から人が集まってきたからこそ東京ですね。江戸っ子たちに排他的なものがなかったんでしょう。私の両親も静岡から出て来て東京の下町に住んで、東京の包容力を感じて育った人たちだと思います。親父は洋服の仕立て屋でしたが、「ふざけんじゃあねえぞ」なんて江戸っ子口調で、いつの間にか下町の人になっていたみたいです。

——オリンピックも東京で一度ご覧になりました。今回大会はいかがでしたか？

前回の昭和39年は、日本はまだオリンピックをやるような国力ではなかったように思います。よくぞやりましたよ。その年、仕事で仙台に行ったときに近くで聖火リレーをしていると聞いて、わざわざ観に行ったのを覚えています。猛烈に無理をして、オリンピックのためにテレビも買いました。前日までどしゃぶりだったのが開会式当日はピーカンで、あの晴れ方は見事だったなあともつくづく思います。

やはり陸上競技はオリンピックの花ですね。前回大会の男子100メートル決勝のボブ・ヘイズの走りは脳裏に焼きついています。円谷幸吉さんがゴールの国立競技場に2位で戻ってきたのに、イギリスの選手にトラックで追い抜かれたときは震えるほど悔しかった。いろいろな感情がこみあげてくることも含め、どうしても観たくなっちゃう魅力がオリンピックにはありますね。今大会は、

テニスはよく観ました。あの球を取るのか！そこは取れる球だろう、なんてブツブツ言いながらね。お客さんの掛け声や歓声が相乗効果になるのは舞台上立つ我々も同じ。1年延期もあり、無観客のなか選手はよくやったと思います。

——長い役者生活でも観客人数制限は初体験ですね…。

舞台の上から見て、客席制限のためのテープには当惑しました。特に喜劇は、お客さんの雰囲気がつくるといってもいい。昨日の芝居のままではダメだ、そこは違うというのを、お客さんが示してくれるんです。公演が終わると家で夜中じゅう考えて、次の日楽屋に入ります。以前三宅裕司氏に言われました。「伊東さんって、おはようござ



記念公演「伊東四朗生誕?180+3周年記念 みんながらくた」(令和3年)

PROFILE

伊東四朗 いとう・しろう

昭和12年東京府東京市下谷区竹町に生まれる。昭和33年劇団デビュー。昭和37年てんぷくトリオを結成。俳優として「おしん」「ひらり」「マルサの女」「十津川警部シリーズ」「おかしな刑事シリーズ」など多くの作品に出演。「伊東四朗一座」(平成20年)、「伊東四朗生誕?180+3周年記念 みんながらくた」(令和3年)など舞台出演も多数。バラエティー番組「伊東家の食卓」、「ヤクルトタフマン」「白子のり」などのCMでも活躍。吉田照美さんとのラジオ番組「伊東四朗 吉田照美 親父・熱愛」は平成9年から現在も続く。

います”って楽屋に入ってきたことがないですよ。ね。いつも”あそこなんだけどさ”と言って入ってくる”と。喜劇ってそういう作り方がおもしろいんです。普通にしゃべっているのにおかしいというのが快感で、そんな喜劇が好きなんです。

——まだまだやめられませんか。

実は最近、「2年後の舞台に出てくれませんか？」とオファーがあつたんです。身が震える思いでしたが、とてもうれしかったです。「ぜひ出させてください。ただ86歳という年齢は未知で、どう変化しているかもわかりませんから、稽古では心を鬼にして接してください」とお返事しました。

今でも舞台の初日、開演前のブザーが鳴るとセリフが全部飛んじゃうような気がするんです。やつてもやっても慣れるということはありません。毎回お客さんとの勝負です。お客さんの満足した表情を見て、今日は勝ったと思う。それが一番うれしいときですね。

歴史と文化と緑に育まれた、 みんなが主役のまち「文ふみの京みやこ」

文京区

■概要

文京区は、江戸の面影を色濃く伝える史跡や文化資産の多い、歴史的なまちであり、また、伝統ある大学や多くの学校のある文教の地としても知られています。

区内には、由緒ある神社・仏閣、歴史を語る建造物が数多く残っているほか、明治時代には東京大学を始めとする多くの学校がつくれ、さらに森鷗外や夏目漱石などの近代文



六義園（江戸初期に完成した桂離宮の庭園の様式を採用した回遊式築山泉水庭園です。元禄時代の明るいおおらかな気風を反映した、江戸大名庭園の代表的なものです。）

学史上にその名を残す文豪たちが活動の拠点とし、文京のまちの礎を築きました。

また、小石川後樂園や六義園など江戸の大名屋敷庭園の面影を残している庭園もあり、緑と文化財に恵まれたまちです。

■「文の京」総合戦略の策定

区では、平成22年6月に策定した「文京区基本構想」に掲げる将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」の実現に向け、3期にわたる「文京区基本構想実施計画」に示した計画事業を着実に実施してきました。基本構想が、計画期間である概ね10年を迎えたことから、令和2年3月に、新たな区の最上位計画として「文の京」総合戦略を策定しました。本戦略では、基本構想の根幹となる理念や将来都市像を、あらゆる分野の共通の指針として継承しつつ、区が解決すべき主要課題を明らかにし、4年後の目指す姿を見据えた、取組の方向性や事業のロードマップを示しています。

各基本政策における令和3年度の主な施策を紹介します。

■基本政策1

子どもたちに輝く未来をつなぐ

妊娠中の様々な不安を軽減し、安心して出産を迎えることができるよう、妊婦の方全員を対象に、保健師・助産師が面接を行い、健康や子育てに関する相談などを行う、「文京

区版ネウボラ事業」等を通し、各家庭のニーズに応じたきめ細かな支援を妊娠期から切れ目なく行っています。

また、令和3年度からは、「Society 5・0の教室プロジェクト」として、区立小・中学校に配備されているタブレット端末を活用した、対面授業とオンライン授業を同時に行う「ハイブリッド授業」の実施に向け、取り組んでいます。

■基本政策2

健康で安心な生活基盤の整備

だれもが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、「文京区版」地域包括ケアシステムを推進しています。具体的には、住宅の確保に配慮が必要な高齢者等に対して、住まいの確保と住まい方を支援する「文京すまいるプロジェクト」を実施しているほか、認知症施策として、令和3年度からは、認知症に関する正しい知識・理解の普及啓発と、早期の気づきを支援するため、55歳から75歳までの5歳ごとの節目に認知症検診を実施しています。

■基本政策3

活力と魅力あふれるまちの創造

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小企業の事業継続と企業力の向上を図るため、生産性向上設備や省エネ設備の整備に対する補助等を行っています。

また、文化・観光施策としては、令和4年

7月に没後100年を迎える、本区ゆかりの文人である森鷗外の顕彰事業を実施するなど、引き続き多くの区民に鷗外を身近に感じてもらうとともに、区内外に向け、鷗外を通じて本区の魅力を広く発信していきます。さらに、感染症の影響を受けた地域活力の復興と新たな魅力創出を図るため、区民参画による、区オリジナルの観光土産品づくりに向け取り組んでいるところです。



森鷗外記念館（鷗外の生誕150年を記念し、鷗外の旧居「観潮楼」跡地に開館しました。展示室のほか、映像コーナーや鷗外関連の調査・研究のための図書室などがあります。）

■基本政策4

文化的で豊かな共生社会の実現

区は、パラリンピック難民選手団のホストタウンとして全国で初めて登録され、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所、国連UNHCR協会の協力のもと、パラリンピック期間中に、難民選手団と区内小学生とのオンライン交流会を実施しました。

また、図書館については、読書リアフリー法を踏まえた障害者や高齢者等の読書環境の整備に加え、感染症対策も含め、非来館型の

「いつでも、どこでも、利用できる図書館」として、電子書籍サービスを拡充するなど、多様化する区民ニーズに対応しています。

■基本政策5

環境の保全と快適で安全なまちづくり

感染症対策に配慮した避難所の開設・運営方法を示した避難所運営ガイドライン「新型コロナウイルス感染症対策編」を作成し、「3つの密」を避けるための避難所のレイアウト案を示すなど、感染症との複合災害を見据えた災害対策の強化を図っています。また、風水害対策として、区との協定により垂直避難ができる場所を提供していただく民間事業者等に対し、備蓄物資を配備するなど、垂直避難場所の確保にも努めています。

その他、区民等の利便性の向上に向け、令和3年9月から、コミュニティバス「Bーぐる」の新規路線、「本郷・湯島ルート」の運行を開始しました。

■基本政策6

持続可能な行財政運営

戸籍・税関係の各種証明書の発行手数料や、住民税・軽自動車税・国民健康保険料について、キャッシュレス決済を導入するなど、ICTを活用した区民サービスの充実を図っています。また、令和3年度からは、窓口等における手続きの効率化と区民の利便性の向上を図るため、各種届出に関し、必要な書類や受付窓口、電子申請等を事前に案内する、

文京区 手続きガイド

文京区 公式サイト



「手続きガイドサイト」を導入しています。

「文の京」総合戦略では、計画期間中であっても事業を柔軟に組み替えるなど、戦略的な事業展開を図っており、これからも、様々な社会変革にも柔軟に対応した、課題解決型の区政運営を推進していきます。

手続きガイドサイト

子どもが輝く参加と協働のまち せたがや

世田谷区

プロフィール

世田谷区は東京23区中の西南端に位置しており、面積は23区で2番目に大きく、人口は約94万人で、東京都内で最も多くの人暮らしが暮らす住宅都市です。大都市でありながら、23区内唯一の渓谷である等々力渓谷などの自然環境にも恵まれ、みずとみどり豊かなまちでもあります。また、三軒茶屋、下北沢、二子玉川などのように、若者から高齢者まで様々な世代の人々が集う活気に満ちた商業地や、美術館や文学館などの文化施設も点在しています。世田谷区は、様々な魅力を併せ持ち、「住みたいまち」だけでなく、「住み続けたいまち」としても高い評価を得ています。

基本構想・基本計画

区では、平成25年9月に世田谷の20年間を展望する基本構想を策定しました。基本構想では、今後の目標や理念として、「個人を尊重し、人と人とのつながりを大切にする」、「子ども・若者が住みやすいまちをつくり、教育を充実する」など、九つのビジョンをまとめました。この基本構想が示すビジョンの実現に向け、平成26年度から10年間の区政運営の基本的指針となる基本計画を策定し、計画の副題として「子どもが輝く参加と協働の

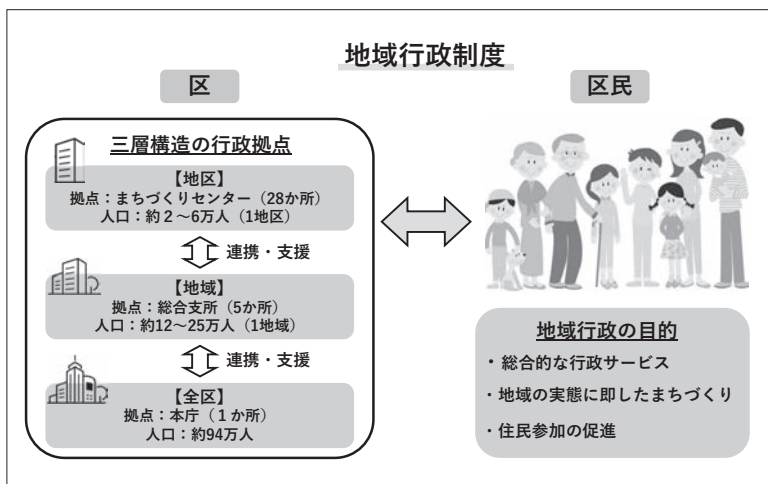


等々力渓谷

まち せたがや」を掲げています。これは、高齢者から子どもまで、世代を超えてあらゆる区民に「参加と協働」の可能性をひらき、次の世代に持続可能な環境と社会基盤を引き継いでいく、という基本計画のメッセージを表しているものです。

地域行政制度

いくつかの県や政令指定都市の人口に肩を並べる世田谷区で、区民の声を受け止め、地域の実情に応じたきめ細やかな行政サービスやまちづくりを行うため、平成3年から「地域行政制度」を導入しています。「地域行政制度」とは、都市としての一体性を保ちながら、区内を区分して行政拠点を置き、区民に身近な行政やまちづくりを行う世田谷区独自のしくみです。現在、本庁のほかに、5つの地域の総合支所、28の地区のまちづくりセンターによる三層構造の行政拠点を設置しています。



地域行政制度

子ども・子育て応援都市の推進

世田谷区は、平成13年12月に、23区で初めてとなる「世田谷区子ども条例」を制定しました。子どもの権利条約に掲げる理念のもと、子ども条例で謳う「子どもがすこやかに育つ

ことのできるまち」を目指し、子どもの人権擁護機関「せたがやホッと子どもサポート」の設置や「子ども・子育て応援都市宣言」の発布、「世田谷版ネウボラ」の開始、区立児童相談所の設置など、多様な子ども・子育てにかかると支援に取り組んでいます。

【区立児童相談所の開設】

令和2年4月、世田谷区では、23区で初めてとなる区立の児童相談所を開設しました。子ども家庭支援センターと児童相談所の一元的な運用を柱として、必要に応じて両機関の機能を組み合わせ、問題の解決まで協働した支援を行いながら、児童虐待への迅速かつ適切な対応を行っています。区民生活に密着した基礎自治体として、虐待の予防から一時保護、里親委託や施設への入所措置、その先の家庭復帰など児童相談のあらゆる場面において子どもの権利が保障され、その最善の利益が優先された「みんな子どもを守るまち・せたがや」の実現を目指しています。

【産後ケア事業】

区は、平成20年3月に日本で初めて産後ケアセンターを開設しました（平成30年度から区立施設として運営）。また、平成28年には、医療機関との連携による産後ケア（デイケア）のママズルームも開設しました。産後4か月未満の母子を対象に、産後の心身ともに不安定な時期に、育児不安や育児疲れがあり、家族などから支援を受けられない方を対象に、

ショートステイ（宿泊）やデイケア（日帰り）により、母体ケア、乳児ケア、育児相談・指導などを行い、予防的・総合的に子育て家庭を支援しています。

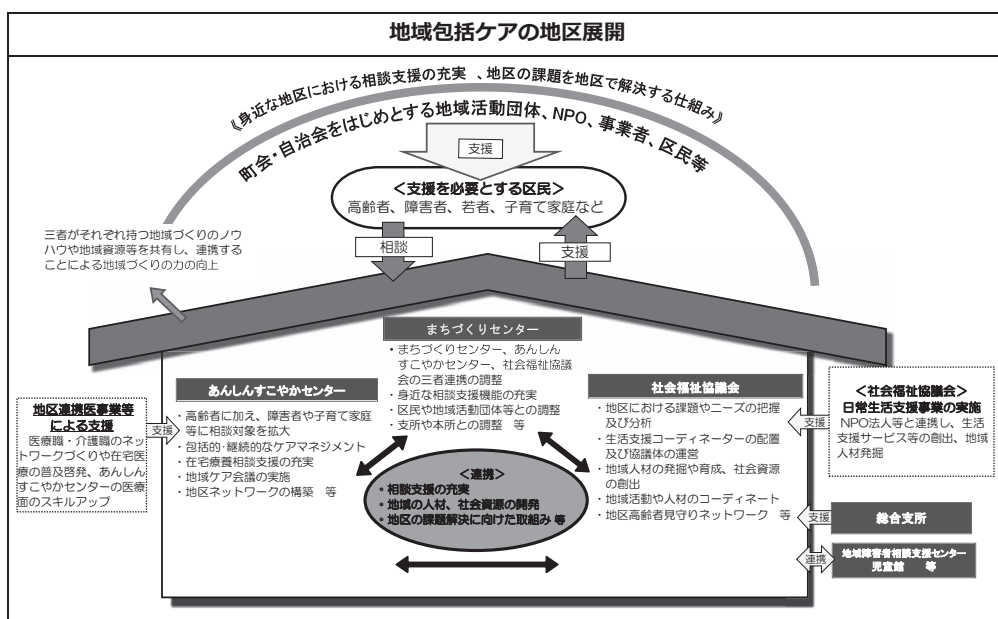


児童相談所

■地域包括ケアの取組み（福祉の相談窓口）

世田谷区では、地域包括ケアシステムの構築にあたり、対象を高齢者だけではなく、障害者、子育て家庭、生きづらさを抱えた若者、生活困窮者など広く捉えており、また、地域包括ケアシステムは支援を必要とする人だけのものではなく、元気な高齢者や学生、主婦など幅広い区民参加のもとで推進していくことを目指しています。このような考え方のもと、区では、地区のまちづくりセンターと、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会の三者を一体整備し、身近な福祉相談の充実と、地区の人材や社会資源の開発・協働を行う「地域包括ケアの地区展開」に取り組んでいます。28か所のまちづくりセンターに設置した「福祉の相談窓口」

では、三者が連携して、介護に関することだけではなく、様々な福祉の相談を受け付けています。また、区内では区民主体の地域活動が活発に行われており、こうした都市部の豊富な地域資源を活かして、支援を必要とする方々の多様な通いの場の創設や外出支援を実現しています。



地域包括ケアの地区展開

つながり、共に創るまち こだいら

小平市

■成り立ち

令和3年3月、小平市鈴木町の「鈴木遺跡」が国史跡に指定されました。鈴木遺跡からは約1万6千〜3万8千年前の旧石器が出土しており、絶好の狩場として人々の生活が営まれていたことが分かっています。しかし、縄文時代以降は、水田による稲作をはじめとする農業が生活の中心となり、鈴木遺跡の地からは人の姿が見られなくなりました。

再び人の生活の営みが戻ってきたのは江戸時代中期以降です。承応3年の玉川上水の通水をきっかけに、江戸の近郊農村として開発が進みました。明治22年4月1日には市制・町村制が施行され、7つの村の合併により「小平村」が誕生します。

大正末期からは学園都市を造る構想が進められ、女子英学塾（現・津田塾大学）や東京商科大学予科（現・一橋大学小平国際キャンパス）が都心部から移転してくるとともに、次第に人口が増加していきました。さらに戦後は都心部のベッドタウンとして開発が進み、急激な人口増加が起きます。昭和37年10月1日、市制が施行され、全国で558番目、都内では11番目の市として「小平市」が誕生しました。小平市は、令和4年10月1日に市制施行60周年を迎えます。

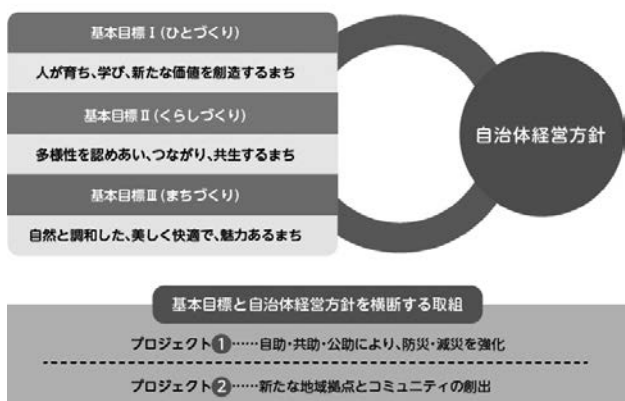
■基本構想

令和3年3月に策定した「小平市第四次長期総合計画」では、めざす将来像として、「つながり、共に創るまち こだいら」を掲げ、その将来像を実現するための基本目標として、「ひとづくり」、「くらしづくり」、「まちづくり」の3つを設定しています。



小平市第四次長期総合計画（表紙）

つながり、共に創るまち こだいら



基本構想の体系図

また、社会全体が大きな転換期を迎える中で、施策や事業分野の方向性を示す計画と、公共サービスをいかに効果的・効率的に提供するかを示す計画とを相互に連動させていくことが有効であることから、行財政改革の取組の方針である「自治体経営方針」を基本構想に一本化して位置づけました。

さらに、各基本目標における施策分野を横断して取り組むべき内容を、2つの「基本目標横断プロジェクト」として設定しています。

■基本目標Ⅰ ひとづくり

一人が育ち、学び、新たな価値を創造するまち

「全ての子どもたちの育ちと自立を支援する（子育て支援、学校教育、若者活躍）」、「全世代が元気にはつらつと過ごす（健康づくり、スポーツ、生涯の学び）」、「まちの誇りを受け継ぎ、発展させる（歴史、文化芸術）」の3つの方針のもと、地域社会を担い、将来にわたって多様に活躍できるひとづくりを目指します。

妊娠・出産期からの切れ目ない支援を行う子育て世代包括支援センター事業や子育て支援の取組、GIGAスクール構想の実現に向けた一人1台端末の購入など教育環境の整備を推進するとともに、こだいら健康ポイント事業などライフステージを通じた健康づくりや、国指定史跡鈴木遺跡の保存活用事業などに取り組んでいます。

■基本目標Ⅱ くらじづくり

「多様性を認めあい、つながり、共生するまち」

「お互いに尊重し、活躍できる社会の実現（男女共同参画、障がい者支援、多文化共生）」、「地域の絆で支えあう（介護、保健福祉、生活支援）」、「誰もが安心と生きがいを持つ地域づくり（地域コミュニティ、安全・安心）」の3つの方針のもと、地域全体で多様性を包み込み、地域で共に生きるあたたかいくらしづくりを目指します。

■基本目標Ⅲ まちづくり

「自然と調和した、美しく快適で、魅力あるまち」

「水や緑を保全・創出し、環境にやさしい循環共生型の社会を形成する（緑、環境、資源循環）」、「安全安心で快適な、住みやすいまちを形成する（市街地整備、道路、交通）」



青梅街道と農地（小川町1丁目周辺）



江戸時代に開通した玉川上水

「地域資源をいかし、活力と交流を生み出す（商工業、都市農業、観光）」の3つの方針のもと、水や緑の憩いの空間を適切に保全しながら、駅周辺を中心とする利便性が調和した、将来にわたって魅力と活力に満ちたまちづくりを目指します。

ESCO事業を活用した照明LED化など環境にやさしい地域社会の形成や循環型社会の実現に向けた取組を推進するとともに、都市計画公園である鷹の台公園・鎌倉公園の整備に向けた検討、小川駅西口地区市街地再開発事業、都市計画道路の整備、持続可能な下水道機能の確保などを推進しています。また、地域との協働によりコミュニティバス・コミュニティタクシーを運行しているほか、都市農業の強みを生かした地産地消や農業と商業の連携など地域のにぎわいづくりに取り組んでいます。

■自治体経営方針

4つの方向性として、「地域資源によるサービスの実現」、「将来に向けた財政運営・財産活用」、「運営・業務執行体制の効率化」、「職員と職場の活性化」を掲げ、公共施設マネジメント

トやDX推進の取組などを展開しています。持続可能な自治体を築くため、将来を見据えて限られた経営資源を最大限に活用し、最小の経費で最大の効果を生み出していくとともに、公共サービスの提供における行政の位置づけや役割の見直しを進めていきます。

■基本目標横断プロジェクト

2つのプロジェクトを掲げ、施策分野を横断して取組を推進します。

① 自助・共助・公助により、防災・減災を強化します

近年の大規模地震や台風の大規模化、多発する集中豪雨など、大規模自然災害の発生リスクの一段の高まりを受け、大規模自然災害が起こっても機能不全に陥らない、「強さ」と「しなやかさ」を備えた安全・安心な地域づくりを推進していきます。

② 新たな地域拠点とコミュニティの創出に取り組みます

複雑化・多様化する地域の課題に対しては、住民や地域コミュニティ、NPOなど多様な主体によって課題を発見、解決していく仕組みや、住民と行政がそれぞれの立場で役割分担し、連携、協力しながら対処する取組が求められます。自治会の育成、多世代交流、地域で活躍する担い手の支援、それぞれの活動団体・個人のネットワーク化、多様なコミュニティの主体が集まることのできる場づくりを推進していきます。

愛情ギュッと ずくっと はむら
東京で子育てしやすいまち

羽村市

■羽村市の概要

羽村市は、東京都心から西へ約45キロメートルに位置し、多摩川周辺の自然や武蔵野の面影を残す雑木林などの緑につつまれ、住宅地と工業地域がバランス良く配置されたまちです。

面積は、9・90平方キロメートル。市の西から南へ多摩川が流れ、江戸時代に開削された玉川上水の取入口があることで知られています。

■羽村市のあゆみ

羽村市は、江戸時代まで武蔵野の典型的な農村でしたが、承応2（1653）年、羽村を水源として、玉川兄弟により玉川上水が開削され、活況を呈するようになりました。

江戸幕府の役所（陣屋）が設けられ、多摩川の水が江戸まで送られるようになると、江戸との交流も頻繁となり、玉川上水の維持・管理や改修工事の請負等で経済的にも活性化していききました。

明治22（1889）年に市町村制が施行され、当時の羽村、五ノ神村、川崎村が合併し、現在の羽村市の前身である「西多摩村」（人口3132人、戸数501戸）が誕生。先覚者の努力により徐々に近代化し、特に明治末

期から昭和初期には養蚕業が著しく発展し、その名を全国に高めました。

戦後は、養蚕を中心に復興を進めましたが、進取の気性に富んだ往時の人々により、首都圏近郊農業への模索が行われる中で、都市化の傾向が徐々に現れました。人口も増加していき、昭和31（1956）年の町制施行で、人口1万104人、1886世帯の「羽村町」となりました。

昭和37（1962）年には、首都圏整備法による市街地開発区域に指定され、工場誘致や市街地整備により人口も急増し、現在のようになり工業都市と住宅都市が調和した職住近接の近代都市として発展してきました。

そして、平成3（1991）年11月1日、市制を施行し、「羽村市」（当時…人口5万3381人、1万9386世帯）が誕生しました。

■玉川上水と羽村取水堰と花と水の彩り

玉川上水の出発点となる羽村取水堰の周辺では、毎年春に「はむら花と水のまつり」が開催されます。玉川上水沿いに約200本の桜が咲き誇る「さくらまつり」と、市内唯一の水田「根がらみ前水田」の裏作を利用した、関東最大級を誇る約35万球のチューリップによる「チューリップまつり」が連続するまつりで、「花と水のまちはむら」にふさわしい彩りに包まれます。

子どもとお散歩で行けるのがうれしい、地域に密着した交流の場となっています。



羽村取水堰



根がらみ前水田のチューリップ



春の玉川上水



動物公園（キリンのえさやりの様子）

また、玉川上水は、平成15年に国の史跡に指定され、羽村取水堰は、平成26年度土木学会の選奨土木遺産に選定されるなど、歴史の息吹を現在でも感じることのできる貴重な場所でもあります。

■日本初の町営動物公園「羽村市動物公園」

羽村市動物公園は、昭和53年、全国初の町営動物公園として開園しました。開園以来、市民はもちろん市外からも多くの方に来園いただき、令和2年度には入園者が1080万人を超えました。

かわいい動物と触れ合えるアットホームな雰囲気の魅力で、子どもと一緒に散歩でも立ち寄れる、とても身近な動物公園です。

ハード面の充実はもとより、童話になぞらえた展示や隣接する小学校に通う子どもたちの通学路として園の一部を開放しています。また、開園40周年を迎えた平成30年に園内をリニューアルするとともに、クラウドファンディングによる新たなシンボルとなる看板を製作し、皆さんに親しまれ信頼される施設として、確かな歩みを続けています。

これからも、たくさんの笑顔が生まれ、皆さんに愛される動物公園を目指していきます。体の網目模様の中にハートマークが隠れているキリンもいるので、来園した際にはぜひ探してみてください。

■安全・安心でおいしい地下水100%の水道水
羽村市の水道水は地下水100%。安全でおいしく、子どもにも安心して飲ませることができます。井戸から汲み上げた水は浄水場で処理して、市内3カ所の配水塔から家庭へ給水しています。

■愛情ギュッと ずっつと はむら
東京で子育てしやすいまち

羽村市では、アンケートやワークショップなどのさまざまな機会を通じて、子育て中の家族と一緒に「愛情ギュッとずっつとはむら」東京で子育てしやすいまち」というブランドをつくりました。

このブランドは、「人の温かさ」「都会の便利さ」「自然の豊かさ」がキーワードになっ

ており、「子どもの成長に大切なモノと家族に必要なモノが小さなまちにバランスよくそろっている東京の羽村市だから、みんなの優しさで子どもを育てる、家族の笑顔があふれる暮らし方を実現できる」ということを表現しています。

子育て支援サービスの充実はもちろん、「はむら家族プロジェクト」として、子育て中の家族をプロのカメラマンが撮影し、撮った写真をプレゼントしたり、子育て家族が交流してつながりをつくる場を提供したり、子育て家族が羽村で気持ちよく子育てできるように、様々な取り組みを行っています。

■新たな「羽村市の未来」へ
令和3年11月1日、羽村市は市制施行30周年を迎えました。これまでさまざまな分野で市民サービスの向上を図りながら、自立したくらしやすい都市を目指してきました。

令和4年度からは、第六次長期総合計画に取り組み、将来像に掲げた「まちに広がる笑顔と活気 もっと！くらしやすいまち はむら」の実現を目指してまいります。時代の変化と向き合いながら、力強く前へと進む、市民、事業者、地域の活気が、暮らしやすさが続くまちを創り上げ、そして、未来を担う子どもたちが、わがまちに愛着や誇りを感じられるまちづくりに全力で取り組んでいきます。

令和4年度からは、第六次長期総合計画に取り組み、将来像に掲げた「まちに広がる笑顔と活気 もっと！くらしやすいまち はむら」の実現を目指してまいります。時代の変化と向き合いながら、力強く前へと進む、市民、事業者、地域の活気が、暮らしやすさが続くまちを創り上げ、そして、未来を担う子どもたちが、わがまちに愛着や誇りを感じられるまちづくりに全力で取り組んでいきます。

令和4年度からは、第六次長期総合計画に取り組み、将来像に掲げた「まちに広がる笑顔と活気 もっと！くらしやすいまち はむら」の実現を目指してまいります。時代の変化と向き合いながら、力強く前へと進む、市民、事業者、地域の活気が、暮らしやすさが続くまちを創り上げ、そして、未来を担う子どもたちが、わがまちに愛着や誇りを感じられるまちづくりに全力で取り組んでいきます。

めざすべき村の将来像
行ったり、来たり、御蔵島

御蔵島村

くみどり豊かな自然に恵まれ、
すべての人が住んでよかった！
と思える御蔵島く

■プロフィール

御蔵島は、東京の南方海上約200 kmに位置するほぼ円形をなした鐘状の島です。面積20・54²km²、周囲16・8 kmで、御山（標高850 m）を中心に島全体が一つの山岳の様相を呈し、海岸は海食のため直立した断崖が多く、雄大な景観をなしています。

島の玄関口となる御蔵島港は、島の北部に位置し、島内唯一の港湾として島民の生活と村の経済活動を支えています。大型定期船が接岸する岸壁の他に、港内に小型船施設が整備され、漁船溜まりとして利用されています。現在、大型定期船の就航率向上のため、新たな岸壁の整備が進んでいます。

黄楊、桑等の林業、タカバ、イセエビ等の漁業が主な産業となっていますが、2004（平成16）年からは、「御蔵島エコツーリズム」が実施され、適正なルールに基づき、巨樹の森・イルカウォッチング等の観光利用を進め、貴重な自然を守りながら観光振興にも努めています。



御蔵島全景



稲根神社例大祭



御蔵島大ジイ



ドルフィンスイム



御蔵島花火大会

御蔵島の名前の由来には諸説ありますが、一説によると「神様の『宝』をしまう蔵を置いたために伊豆諸島で6番目に創られた島」と、言われています。御蔵島は世界でも類を見ない貴重な自然の『宝島』です。

■これからの村づくり

他の自治体同様に介護人材をはじめとした専門職の人材不足、各産業界の後継者不足など多くの課題を抱えています。

御蔵島村の将来像の実現を目指して以下3つの重点プロジェクトを設定します。

「みくらしま交流関係促進戦略」「みくらしま移住定住促進戦略」「『e・みくらしま』と協働促進戦略」行政内のみならず、東京都や国等の関係機関に対しても協力要請を図るとともに、住民や各種団体とも連携・協働しながらプロジェクトを推進します。

将来像「行ったり、来たり、御蔵島」は、住民と行政が一体となって目指していく必要があります、行政への住民参加を積極的に促進することで、住民の意思に基づく「村づくり」を実現していくため努めて参ります。



白滝

SPORTS & SUPPORTS スポーツと人情が 熱いまち 江東区

江東区長



山崎 孝明

江東区のブランドコンセプト

伝統と歴史を重んじ、昔ながらの下町の「おせっかい」が色濃く残る江東区は人情に厚く、とても温かいまちです。

また、区内にはスポーツ施設を数多く有し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では大会の中心地として多くの競技が開催されるなど、区民がスポーツを身近に感じられるまちでもあります。

そのため本区では伝統的に受け継がれてきた下町人情と充実したスポーツ環境こそが本区の魅力・強みであることから平成27年度に本区のブランドコンセプトを「SPORTS & SUPPORTS スポーツと人情が熱いまち 江東区」とし、国内外に区の魅力を積極的に発信しています。

地球環境にやさしいまちを目指して

私は江東区議会議員、都議会議員を務めた後、平成19年4月に江東区長に就任し、現在4期目となります。就任当初より、まちづくりの理念として、本区の水辺や



ブランドコンセプトロゴマーク



横十間川親水公園

「写真提供：一般社団法人江東区観光協会」

緑に恵まれた環境を活かした「CITY IN THE GREEN (CIG みどりの中の都市)」を掲げ、区民・事業者とともに緑化への取り組みを積極的に推進してきました。また、昨年7月には2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明しました。

未来のこともたちへ「水と緑豊かな地球環境にやさしいまち」を残すことは、私の責務であると考えています。

地下鉄8号線(豊洲く住吉間)の延伸

区内の公共交通は、JRや地下鉄など、東西を結ぶ鉄道網が充実している一方で、南北を結ぶ鉄道がなく、南北交通を充実させる地下鉄8号線(東京メトロ有楽町線)の延伸は、江東区にとって長年の悲願となっています。また、周辺路線の車内混雑緩和などに寄与する路線でもあることから、早期に延伸を実現させるために私自身も関係機関へ



若洲風力発電施設

の働きかけなどを行ってきました。

そうした中、昨年7月の交通政策審議会答申で、地下鉄8号線の延伸が「早期の事業化を図るべき」と示され、ようやく事業化にあと一步のところまで迫っています。

引き続き、関係自治体とも連携して早期延伸の実現に向けて取り組むとともに、延伸を見据えた沿線地域のまちづくりなどを進めていきます。

大会のレガシー継承

昨年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。私は1964年の前回の東京大会のときに選手村の食堂でボランティアをした経験があります。東西冷戦時代であり馴染みのない東欧諸国の選手たちと交流ができ、選手が帰国する際には皆で涙を流して見送ったことは今でも強く記憶に残っています。

そのため、今の子どもたちにもオリンピックの感動や素晴らしさをぜひ体験させてあげたいというその一心で招致の段階から全力を挙げて取り組んできました。

その大会が、新型コロナウイルス感染症の影響で、まったく想定していない形での開催となってしまいました。子どもたちに、なんとか観戦の機会をつくってあげられないかと奔走しましたが叶わなかったことが、非常に残念ではありません。

しかしながら、今後は大会のレガシーをしっかり継承し、区民の誰もがスポーツをより身近に感じ、スポーツを通じて誰もが健康で生き生きと暮らせる江東区を目指します。

夢があるまち「海の森」

江東区は臨海部を中心にマンション開発が進み、令和元年には人口52万人に達しました。また近年は区民の定住意

向が9割を超える高さを誇っています。しかし、これまで長い間、ごみ問題に多くの区民が悩まされてきました。中央防波堤埋立地をはじめ、本区地先の臨海部はごみの埋立処分場として使用され、悪臭やハエの大量発生、1日5千台のごみ収集車両が通過することによる交通渋滞等、江東区民の忍耐と犠牲の上に造成されてきた歴史的な経緯があります。

こうした経緯を踏まえ、令和元年には中央防波堤埋立地の大部分が江東区に帰属され、町名を新たに「海の森」と名付けました。「海の森」のまちづくりでは長期計画において、オリンピック・パラリンピックのレガシーや水と緑の豊かな環境の活用を掲げており、夢のあるまちづくりに取り組む予定です。

次世代へ誇れる江東区を目指して

平成21年3月に策定した江東区基本構想では概ね20年後の将来像を「みんなで作る伝統、未来 水彩都市・江東」としています。この間、著しい発展を遂げた江東区は未来への限らない可能性を秘めたポテンシャルの高いまちとなりました。

そして、今後は先人たちが築き上げた江東区の良き伝統を継承すると同時に、次の世代が誇れることのできる江東区をつくりあげ、今まで以上に区民に愛される魅力溢れるまちを目指していきます。



「海の森」がある中央防波堤埋立地

「魅力あふれ ひとがつながる 文化都市国分寺」 を目指して

国分寺市長

井澤 邦夫



■ 様々な個性が輝くまち

国分寺市は東京都の中心（重心）、いわゆる「へそ」に位置しています。市内にはJR中央線・武蔵野線、西武国分寺線・多摩湖線が縦横に走っており、国分寺駅は、多摩地域の交通の要衝となっています。国分寺駅北口では、長年の課題であった再開発事業が令和3年2月に完了し、本市の更なる発展が期待されます。



お鷹の道・真姿の池湧水群

一方、都市部に在りながら緑と水が豊富で、国分寺崖線沿いには全国名水百選に選定された「お鷹の道・真姿の池湧水群」、「都立殿ヶ谷戸庭園」、「万葉植物園」など自然を満喫できるスポットが多くあり、にぎわいと住みやすさのバランスが取れた魅力的なまちです。

また、奈良時代の天平の昔に全国最大規模を誇る武蔵国分寺が建立された歴史のまちであり、日本初のペンシルロケット水平発射実験が行われた宇宙開発発

祥の地、新幹線ひかり号誕生の地といった科学技術のまちでもあります。

これらの様々な個性が輝くまちとして更に魅力を高めながら、選ばれるまち、市民が誇れるまちを目指しています。

■ SDGsの達成を目指して

「2020年からの10年間はSDGsの達成に向けた行動の10年」であり、SDGsの達成に向けた施策の推進は、地方自治体が抱える諸課題の解決につながっていきます。本市においてもこの取組を進め、将来にわたり活力があふれる持続可能な地域社会を実現したいと考えています。

その具体的な取組の一つとして、カーボンニュートラルに向けた施策の推進があります。市域全体で温室効果ガス排出実質ゼロを達成するため、公共施設の省エネルギー化を進めるとともに、令和6年度に竣工予定の新庁舎への再生可能エネルギー機器導入などに取り組んでいきます。

また、市民や事業者に向けて、地域版地球温暖化防止行動計画を策定して普及啓発を進めるとともに、幅広い関係者や関係団体と協働・連携しながら、ゼロカーボンシティを目指していきます。

■ 共生社会の実現に向けて

本市は、総合的なスポーツ施設のバリアフリー化や多目的運動場の人工芝化を行うなど、障害のある人もない人もスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、東京2020大会におけるベトナムのパラスポーツ選手団の応援を契機として、都内の市町村では初めて



国分寺駅北口再開発ビルと駅前広場



ベトナムパラ選手団による小学校訪問

「共生社会ホストタウン」の認定を受け、多様性の理解促進と国際交流の推進に取り組んできました。

また、令和2年11月には「国分寺市パートナーシップ制度」を導入するなど、ダイバーシティとインクルージョンへの取組を推進しています。

さらに、相互に人格と個性を尊重し、人々の多様な在り方を認め合える全員参加型の社会を目指して、令和3年12月に「すべての人を大切にすまち宣言」を制定しました。国分寺で暮らす全ての人が自分らしく、いきいき健やかに生活できるよう、共生社会の実現に向けた施策を引き続き展開していきます。

■国の史跡指定から100年を迎えて

令和4年度は、本市の名前の由来にもなっている武蔵国分寺跡が、国の史跡指定を受けてから100年を迎えます。地域の皆様方のこれまでの御理解と御協力に、改めて感謝申し上げます。

古代の日本は、大陸との盛んな交流を通じて、仏教をはじめとする様々な文物を受容し社会を発展させていく一方で、度重なる疫病が国を襲いました。特に、約1300年前の奈良時代には天然痘が猛威を振るい、当時の人口の約5分の1に当たる100万人の生命が失われたといわれています。時の聖武天皇は、仏教の力で国を鎮めようと「国分寺建立の詔」を發布し、全国各地に造営された寺の一つが武蔵国分寺です。

コロナ禍を経験した今、武蔵国分寺の歴史的意義を改めて認識することは、非常に重要で意味深い



史跡武蔵国分寺跡

ものと考えます。史跡指定100周年事業を通してこれまでの歩みを振り返り、過去の歴史に学びながら次世代へレガシーを継承するとともに、希望あふれる明るい未来へつなげていきたいと思えます。

■歴史と文化を次世代へつなぐ

本市の最上位計画である「国分寺市総合ビジョン」では、未来のまちの姿を「魅力あふれ ひとがつながる 文化都市国分寺」と定めています。「文化都市国分寺」には、これまでの歴史を受け継ぎ、「国分寺」の名にふさわしい文化の薫り高いまちを目指すとともに、新しい文化の醸成を図り、まちの魅力として発信し続けていくという意味が込められています。

本市が誇る歴史と文化を子どもたちへ継承する取組として、市民文化団体が主体となって日本舞踊などの伝統芸能や和装礼法などの生活文化を体験・習得する「伝統文化こども教室」や、日本の宇宙開発と先駆者たちの思いを次世代へ受け継ぐ「国分寺×宇宙」推進事業などを実施しています。市民の文化芸術への関心を一層高めるとともに、その灯を絶やさぬよう、引き続き積極的に取り組んでいきます。

■ともに進める持続可能なまちづくり

国分寺市を次の世代へと引き継いでいくためには、少子高齢化の更なる進展や人口減少社会の到来も見据えつつ、急速な社会環境の変化に柔軟に対応していかなければなりません。「国分寺市総合ビジョン」に掲げた「ともに進める」、「ともに高める」、「ともにつなげる」というまちづくりの基本理念を念頭に、市民・事業者等の皆様とともに、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりをこれからも進めていきます。

人と自然に 癒されるまち 「奥多摩」



奥多摩町長

師岡 伸公

■奥多摩町の概要

奥多摩町は、東京都の最北西端に位置し、東京都のおよそ10分の1にあたる225・53km²の面積を有しており、そのうち94%が森林で、町全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれています。町の中心を西から東へと多摩川が貫流し、東京都の最高峰で日本百名山にも数えられる雲取山を頂点として、四方を山に囲まれた自然豊かな町であり、東京のオアシスとして親しまれ四季折々多くの方に訪れていただいております。

町の人口は、昭和30年の1町2村（氷川町・古里村・小河内村）が合併して奥多摩町が誕生した頃の約15、400人をピークに毎年右肩下がりで減少を続け、現在では約4、900人まで減少しており、特に、生産年齢人口と年少人口の減少が著しく、若者世帯の定住対策は町の喫緊の課題となっております。

■産業・観光

豊かな森林と清流に恵まれた当町では、自然を活かした産業が発展し、とりわけ山葵（わさび）は全国的にその名を知られた特産品の一つで、深い森林の中の沢に沿って美

しい山葵田が広がっています。当町の山葵栽培の歴史は古く、江戸時代後半の文献に町内各地の山葵づくりが記され、将軍家に献上したとも伝えられています。山葵の生育には、清らかな水が不可欠で、山から豊富に湧き出ている水は、年間を通して山葵栽培に最も適している12度前後の水温に保たれており、辛みが強く、キレの良さと豊かな風味が特徴の山葵が育ちます。山葵は薬味としてだけではなく、色々なレシビで楽しむことが出来ます。

観光では、多摩川を小河内ダムでせき止めて作られた奥多摩湖や関東随一の規模を誇る日原鍾乳洞、初心者から中級者まで幅広く楽しむことのできるハイキングコースや登山コースなどがあり、豊かな自然を求めて毎年多くの方に訪れていただいておりますが、ピーク時には237万人あった観光客数が、平成18年頃には一時144万人まで落ち込みました。これを受けて種々検討を重ね町の変わらない森林資源を改めて有効に活用するため、森林セラピー事業を推進し、また、観光の拠点施設となる宿泊施設（奥多摩の風 はとのす荘）の改築を実施するなど、観光事業に取り組んだ結果、観光客数も回復し現在では、212万人程のお客様に訪れていただいております。

これからの観光事業は、宿泊・食べる・遊ぶといったことが独立しているのではなく、伝統文化や郷土芸能を含めた地域の資源、商工業や産業との関わりなど、一見別々の立ち位置にあるそれぞれの人材や事業者等を融合させ、これまで以上に連携を深めて実行して



雲取山



わさび田



奥多摩湖

いくとこが重要であると感じております。このことを念頭に、恵まれた自然環境を活かし今ある施設を有効的に活用して、町の原点である「観光立町」を基軸にしながら、今後も観光事業に取り組んでまいります。

■若者定住推進事業

町の最大の課題は、若者世帯の転入増加と転出抑制対策を早急に実施し、過疎化における人口減少と高齢化に歯止めをかけることでもありますので、長期総合計画において「奥多摩創造プロジェクト」と位置づけ、少子化対策の推進、高齢者対策の推進、定住化対策の推進を町の重点施策として実施しています。特に、高齢者対策においては、地域で高齢者を支える若者世帯の増加が必要不可欠な要素でありますので、若者世帯の定住推進事業を最重



子育て応援住宅

若者世帯の定住推進のため、少子化対策事業として、保育園保育料の全額助成、高校生までの医療費・通学定期代全額助成など、町独自の15項目の子育て支援事業を他に先駆けて実施し、子育て世帯の負担の軽減を行い、子育て・子育てしやすい町の実現に向けて取り組んでいます。

定住化対策事業では、駅や学校に近い場所を中心に、使料を安価に設定したメゾネットタイプの町営住宅や町が建設して管理する新築の賃貸住宅に22年間定住すると、その住宅と土地が譲与される「子育て応援住宅」、さらに、空き家を活用して、15年の定住で実質無償で土地付き住宅を譲与する「いななか暮らし支援住宅」「若者定住応援住宅」事業を行っています。子育て応援住宅は、いななかの魅力を感じる子育てしやすい住宅をコンセプトにこれまで3戸整備し、いずれも町外から転入した子育て世代のご家族が入居しております。いななか暮らし支援住宅や若者定住応援住宅においても、自然の中の生活を求めて、都市部から移住された方に入居いただいております。

若者定住推進事業により、令和3年4月1日現在の町の人口に占める定住対策人口の割合は、総人口で11・3%、年少人口で見ると32・6%となり、人口の減少は依然として続いているものの、人口減少を描くカーブは緩やかになっており、この事業の効果が少しずつ表れてきております。しかしながら、出生数・出生率は極めて厳しい状況に変わりなく、少子化対策事業だけによる子供の増加は見込めなため、引き続き定住化対策事業を重点的に推進してまいります。

今後も住民の一人ひとりが当町の生活者であることに誇りと生きがいを感じ、生涯を健康で安心して暮らせる町として、住み続けたいと思えるよう一步一步着実に事業を進めてまいります。

●公益財団法人

東京都区市町村振興協会の活動状況

●概要

当協会は、東京都内の区市町村の健全な発展を図るために、市町村振興宝くじ（サマージャンボ・ハロウィンジャンボ等）の収益金等を活用し、区市町村の財政支援のための貸付事業等、区市町村を支援する事業を行い、都民福祉の増進に資することを目的としています。

○令和3年度の事業活動

令和3年度に実施した事業（一部予定を含む）の概要は、次のとおりです。

1 区市町村に対する資金貸付事業

サマージャンボ・サマージャンボミニ宝くじの交付金を財源として、災害対策事業及び区市町村が緊急に整備を要する公共施設整備事業の資金として、次の貸付を行いました。

(1)短期貸付

短期貸付は、当該年度内に貸付・償還されるもので、主として災害対策事業や緊急の施設等整備事業のつなぎ資金として活用されています。今年度は貸付総額50億円の枠で、4月に6億円（災害関連事業・施設整備事業）、1月に5億円（施設等整備事業）の合計11億円の資金が1町1村で利用されました。

(2)長期貸付

長期貸付対象は、地方債の届出、同意又は許可された事業とし、5月20日に区市町に貸付を行いました。

貸付額は、特別区が11区23億3700万円、一部事務組合26億6300万円、市町村が21市町54億1940万円で総額104億1940万円でした。

〈貸付利率〉

- ① 償還期間5年以内（据置期間1年以内）
年0・002%
- ② 償還期間10年以内（据置期間2年以内）
年0・01%
- ③ 償還期間15年以内（据置期間3年以内）
年0・1%
- ④ 償還期間20年以内（据置期間3年以内）
年0・2%

2 市町村振興宝くじ交付金の区市町村への交付事業

この事業は、東京都から交付されるハロウィンジャンボ宝くじの収益金を、区市町村が行う地方財政法第32条に基づく公共事業や公益の増進を目的とする事業で地方行政の運営上緊急に推進する必要があるものとして総務省令で定める事業に対して交付するものです。

令和3年度は、16億6816万円余を均等割

50%、人口割50%の割合で全区市町村に交付します。

3 区市町村振興共同事業助成

(1) 62区市町村が連携及び共同して行う事業に対する助成

① みどり東京・温暖化防止プロジェクト事業

東京の62区市町村が連携・共同して緑保全や温室効果ガス削減に取り組み、各自自治体や地域の特性に応じた自然環境保護、地球温暖化防止対策の推進を図るための事業に対し、総額1億3438万円を助成します。

② 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会機運醸成等事業

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催機運を盛り上げるために各区市町村が実施する事業に1億2400万円を助成します。

(2) 東京39市町村が連携及び共同して行う事業に対する助成

① 多摩・島しょ広域連携活動助成事業

多摩・島しょ地域の市町村の各種広域連携活動の立ち上げや既存の連携活動の活性化を促し、多摩・島しょの魅力を高める東京39市町村の共同事業に2億6950万円を助成します。

② 多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成事業

住民が日常的にスポーツに親しみ、取り組むことを習慣として定着させ、健康増進を図ることにより多摩・島しょ地域の魅力を高める事業に4800万円を助成します。

③ 東京39市町村の自治に関する調査研究等事業

市町村の行財政等に関する調査研究、情報提供及び普及啓発を行い自治の振興を図る事業に8530万円を助成します。

④多摩26市自治推進事業

共通する行政課題についての、政策提言や観光地域づくり等を通じて都内26市の自治の振興を図る事業に8650万円を助成します。

⑤多摩地域ペーパーレス化・デジタル化推進事業

都内26市のペーパーレス化・デジタル化推進事業に1000万円を助成します。

⑥東京都町村自治推進事業

国等に対する要望活動や行政課題に資する各種の調査研究事業等を通じて都内13町村の自治の振興を図る事業に771万円を助成します。

⑦「夢の教室」による子どもの心の教育事業

日本サッカー協会が提供する「夢の教室」を通じた都内13町村の教育事業に950万円を助成します。

⑧西多摩及び島しょ地域ペーパーレス化・デジタル化推進事業

都内13町村のペーパーレス化・デジタル化推進事業に900万円を助成します。

⑨東京都町村会創立100周年記念事業

東京都町村会100周年の節目にあたり記念誌の発行、記念式典・講演会等の実施事業に1710万円を助成します。

⑩東京自治会館大規模改修事業

都内全市町村の共同の施設である東京自治会館改修事業に2772万円を助成します。

(3) 23特別区が連携及び共同して行う事業に対する

助成

①特別区全国連携プロジェクト関連事業

各区及び23特別区が全国各地域と連携・交流をさらに深める契機となる特別区全国連携プロジェクト関連事業を通じて、東京を含めた各地域の経済の活性化、地域の振興を図る事業に1億3586万円を助成します。

②「特別区長会調査研究機構」事業

特別区及び地方行政に関わる課題について、調査研究を行う特別区長会調査研究機構事業に1億9706万円を助成します。

③（仮称）東京区政会館別館（特別区職員研修所）整備事業

23特別区職員の共同研修の場として、特別区職員研修所が入居する東京区政会館別館の改築事業に6億4131万1千円を助成します。

(4) 区市町村が共同して設置した団体が行う区市町村振興事業に対する助成

①23特別区の自治に関する調査研究及び普及啓発事業

特別区制度に係る調査研究（特別区制度懇談会等）、特別区自治情報・交流センターの運営等、公益財団法人特別区協議会が実施する事業に1億4760万円を助成します。

②東京39市町村の自治に関する実態調査及び普及啓発等事業

市町村の行財政等に関する実態調査及び機関誌の発行やシンポジウム等、公益財団法人東京市町村自治調査会が実施する事業に1億955万6千円を助成します。

(5) 区市町村職員共同研修事業への助成

行政の専門職及び行政実務の専門家として求められる高度な専門的知識・技能等の向上を目的として行われる特別区と市町村それぞれの職員共同研修事業に計7000万円を助成します。

(6) 日中友好交流事業に対する助成

都内の区市町村と北京市の区との友好交流事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し今年度は中止になりました。

4 区市町村の振興に関する情報提供事業

自治の振興に寄与することを目的として、区市町村の自然や文物、行政活動などを幅広く紹介する区市町村の情報誌「とうきょう自治のかけはし」を3000部発行し、区市町村職員及び一般住民が閲覧できるよう配布します。

(参考) 令和3年度の実績

○サマージャンボ・サマージャンボミニ

発売期間 令和3年7月13日から8月13日まで
売上額（都内）95億9665万円
収入額 21億4782万円

○ハロウィンジャンボ・ハロウィンジャンボミニ

発売期間 令和3年9月22日から10月22日まで
売上額（都内）54億8744万円
収入額 16億6816万円

※全額62市区町村へ交付

●貸付・助成事業

- ・区市町村の施設整備等への資金貸付 115億円
- 貸付残高累計 872億円
- ・区市町村共同事業への助成 21億3009万円（予定）

○令和4年度の事業計画（予定）

令和4年度の東京62区市町村の振興と住民福祉の増進を図るための事業計画は、次のとおりです。

1 区市町村に対する資金貸付事業

区市町村に対し、災害に関する事業及び施設等整備事業の資金として、短期及び長期の貸付を行います。

(1)貸付枠

貸付枠は、短期貸付50億円、長期貸付110億円

(2)貸付対象事業

- ①災害時における区市町村等の緊急融資事業及び災害防止対策事業等
- ②区市町村等における緊急に整備を要する施設等整備事業（ただし、長期貸付にあっては、地方債の届出、同意又は許可を受けている事業）

(3)貸付利率

短期貸付 貸付日の財務省財政融資資金満期一括償還5年以内の貸付利率を下回る率（ただし、当該財政融資資金の貸付利率が0・01%未満の場合については、当該財政融資資金の貸付利率と同率）。災害関連事業は利息免除。
長期貸付 償還期限を5年、10年、15年及び20年の4種類とし、財務省財政融資資金の同一償還期限の貸付利率を下回る率（ただし、当該財政融資資金の貸付利率が0・01%未満の場合については当該財政融資資金の貸付利率と同率）。

2 市町村振興宝くじ交付金の区市町村への交付事業

令和4年度発売のハロウィンジャンボ宝くじ収益に係る東京都交付金を均等割50%、人口割50%の割合で全ての区市町村に交付します。

3 区市町村振興共同事業助成

(1)62区市町村が連携及び共同して行う事業に対する助成

みどり東京・温暖化防止プロジェクト事業
(2)東京39市町村が連携及び共同して行う事業に対する助成

- ①多摩・島しょ広域連携活動助成事業
- ②東京39市町村の自治に関する調査研究事業
- ③多摩26市自治推進事業
- ④多摩地域ペーパーレス化・デジタル化推進事業
- ⑤多摩・島しょ行政手続のオンライン化・事務処理効率化推進事業
- ⑥東京都町村自治推進事業
- ⑦西多摩及び島しょ地域ペーパーレス化・デジタル化推進事業

(3)23特別区が連携及び共同して行う事業に対する助成

- ①特別区全国連携プロジェクト関連事業
- ②「特別区長会調査研究機構」事業
- ③（仮称）東京区政会館別館（特別区職員研修所）整備事業

(4)区市町村が共同して設置した団体が行う区市町村振興事業に対する助成

- ①特別区の自治に関する情報の提供事業
- ②東京39市町村の自治に関する実態調査及び普及啓発等事業

(5)区市町村職員共同研修事業に対する助成

行政の専門職及び行政実務の専門家として求められる高度な専門的知識・技能等の向上を目的として行われる区市町村職員共同研修事業

(6)日中友好交流事業に対する助成

都内区市町村と北京市の区との間の友好交流事業

4 区市町村の振興に関する情報提供事業

自治の振興に寄与することを目的として、区市町村の紹介などを主な内容とした区市町村の情報誌「とうきょう自治のかけはし」の発行・配布。

宝くじ 幸運の女神



◆飯本 日菜子

在 住 地.. 東京都

趣味・スポーツ.. 野球観戦、ラジオを聴くこと、お笑い観賞、コンテンツポラリータン

抱

負..

「幸運と夢の橋渡し役」として、宝くじの魅力をお伝えしていきます。宝くじ「幸運の女神」の活動は、心回目となるので、より一層精進してまいります。よろしくお願いたします。

幸運の女神

全国各地で行われる宝くじに関する各種イベントのお手伝いや、宝くじ抽選会での司会のアシスタントなどで活躍しています。令和6年度に選ばれた「名の「女神」のうち東京都在住の飯本さんを紹介します。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で開幕を迎えた東京オリンピック・パラリンピック競技大会。開催延期や、原則無観客など通常と異なる大会となりましたが、困難な状況乗り越えて活躍したアスリートの姿は、多くの人々に勇気と感動をもたらしたのではないのでしょうか。

「東京オリンピック・パラリンピックが遺したものをテーマとした今号の「グラビア」では、本大会が遺したかけがえのないレガシーを、自治体の皆さまにご紹介いただきました。

「論考」では、スポーツジャーナリストの増田明美さんにオリンピック・パラリンピック競技大会を通じて感じたことや、障害者スポーツの魅力や展望などについてお話を伺いました。ロサンゼルスオリンピック女子マラソンに出場した増田さんならではの視点で、コロナ禍での難しいコンディション調整の中出場することとなった選手たちを労う心温まるお話や、選手の家族を気遣う姿が印象的でした。

また、パラリンピックを通して、子どもや高齢者まで障害の有無に関わらず楽しめる「ユニバーサルスポーツ」の普及が進みました。このような流れが今後も継続され、増田さんが望む多様性に富んだ共生社会の実現に繋がるとを願います。

「わたしと東京」では、喜劇役者の伊東四朗さんにお話を伺いました。台東区に生まれ育ち、たいとう観光大使を務めている伊東さんが東京を「憧れの都」と表現されており、東京への愛情を強く感じました。昔から東京には全国から人が集まってきており、包容力がある街であるというお話からは、東京が多様性を受け入れる魅力的な街であると改めて実感しました。

また、ユーモアを交えつつ語っていただいた舞台への思いや、いつ誰が見ているか分からないから手を抜かないというプロの役者としての姿勢から、私たちが仕事をやる上でも大切なことを学びました。最後になりますが、ご多用の中、快く記事をお寄せいただきました執筆者の皆さま及び関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

- 令和4年3月発行
- 編集／特別区長会
東京都市長会
東京都町村会
- 発行／公益財団法人
東京都区市町村振興協会
東京都千代田区飯田橋3-5-1
東京区政会館

- 印刷／大和綜合印刷株式会社
東京都千代田区飯田橋1-12-11